第７章　肢体不自由

第１節　各教科の実践事例　　中学部３年　（類型Ⅱ）

１　年間指導計画

【目標】

ア　正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現したりする技能を身に付けるようにする。

イ　数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考慮したりする力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見いだし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力を養う。

ウ　数学的活動の楽しさや数学の良さに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。

年間を通して、どのような力を育成するのかを３つの観点で示す。

年間の目標を達成するために、各単元で具体的にどのような力の育成を目指すのかを観点別に具体的に示す。

月	単元名	授業時数	授業目標 （○知識・技能、△思考力・判断力・表現力等、□主体的に学習に取り組む態度）	評価
４	正負の数	７	○正の数と負の数の必要性と意味を理解する。 ○正の数と負の数の四則計算ができる。 ○具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり、処理したりする。 △算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法について表現する。 △正の数と負の数を具体的な場面で活用する。 □様々な事象を正負の数で捉えたり、性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題解決に活用して考えようとする。	乗法の学習に入った際に、加減計算を間違えることが増えた。 具体物を移動する操作の繰り返しが有効だった。 正負の数の具体的な活用場面について多くの例を挙げられた。
６		６		
	文字と式	６	○文字を用いることの必要性と意味を理解する。 ○文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知る。 ○簡単な一次式の加法と減法の計算ができる。 ○数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりする。 △具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現する。 □様々な事象を文字や式で捉えたり、性質や関係を見い出したりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題解決に活用して考えようとする。	
７		１１		
８		０		
９		６		
	方程式	３	○方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解する。 ○簡単な一元一次方程式を解くことができる。 △等式の性質をもとにして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。 △一元一次方程式を具体的な場面で活用する。 □様々な事象を方程式で捉えたり、性質や関係を見い出したりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えようとする。	
１０		１２		
１１		１０		
１２	比例と反比例	６	○関数関係の意味を理解する。 ○比例、反比例について理解する。 ○座標の意味を理解する。 ○比例、反比例を表、式、グラフなどに表す。 △比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見い出す。 △比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現する。 □様々な事象を比例、反比例で捉えたり、性質や関係を見いだしたりする。数学を問題解決に活用して考えようとする。	
１		１０		
２		１０		
３	課題学習	５	△数学の知識を用いて具体的な事象を考察し、表現する。 □自分で課題を設定し、意欲的に問題の解決に取り組む。	

単元終了後、単元の学習を通して、良かった点、生徒の変容、授業における課題などを端的に記す。

２　本指導案

中学部３年　類型Ⅱ　数学科　学習指導案

日　　時　令和○○年 ７月○日（○曜日）
第３校時　１０：４５～１１：３５
場　　所　中学部学習室Ｂ
指 導 者　○○○○

１　単元名　　「【数と式】　文字式の計算」　（○○出版「△△数学１」p.○○～p.○○）

２　単元設定の理由

類型Ⅰ、Ⅱの教科指導は、各単元の内容が明確に示されているため、単元設定の理由は単元観から書くこともある。

⑴　生徒の実態

本グループは、男子１名、女子１名の計２名で構成されている。男子は強直性の脳性まひ、女子は二分脊椎の障害があり、車椅子での生活である。自走での移動ができ、授業の準備や食事などを自分で行うことができる。下学年の学習内容を中心とした教育課程を編成し、基礎的な学力の定着を目指している。

２名に共通することとしては、「相手の質問に対して自分の言葉で答えることができる。自ら教員や友人に話しかける。」など、積極的に人と関係をつくろうとする。必要な支援を自ら求めることができる。一方で、形や線を正しく捉えることが苦手である。１名は文章を話すことが苦手であり、読み飛ばしをすることがある。もう１名は文章の内容を正しく読み取れないことがあるため、多くの漢字にルビを振っている。

数学の授業においては、２名とも計算の間違いはあるものの、自然数での簡単な四則計算に取り組むことはできる。１名は乗法と除法が苦手であり、手が止まってしまうことが多い。２名とも筆算やカッコ付きの計算などにも苦手意識を持っているが、計算の過程を生徒に応じて言葉で一つ一つ説明することにより、手順に沿って解答できるようになってきた。今年度になって単元「正負の数」において乗法と除法に取り掛かってから、これまで理解していると思われていた加法・減法の計算規則を間違えることが増えてしまうということがあった。

また、２名の生徒は、書字や手を使う操作、長い文章の理解等の困難さがある。自立活動の指導と関連付けて、生徒に応じた姿勢への配慮や操作しやすい教材、見やすい板書の工夫、補助手段としての電卓を活用し、生徒が学習内容に取り組みやすいよう適切な環境設定を行う。

学級を構成している人数、雰囲気、単元に関わるこれまでの取組の様子、経験、興味、関心、技能、障害に関わることを簡潔に記述する。

⑵　単元観

本単元の内容は、中学校学習指導要領第１学年の内容「Ａ　数と式（２）」に該当する。

本単元が学習指導要領のどの内容に対応するかを示す。どのような単元を用意し、この単元で何を学ぶのかを記述する。

前単元の「【数と式】文字を使った式」では、生活で起こりうる出来事や具体物と結び付けて、数や文字を扱い、その必要性と意義への理解を深めた。また、変化する数量について文字を用いた式で表したり、文字に数を代入して数量を求めたりすることを学んだ。本単元では前単元に続き【数と式】の内容を扱い、文字を用いた式の計算規則を学び、それを用いて加法と減法を中心とした基本的な一次式の計算を行う。次の単元「【数と式】文字式の利用」で、具体的な状況について式を用いて表したり、式の意味を読み取ったりしながら、文字が表す数量とその関係の理解につなげていく。

これらを通して、数等を用いて物事を分かりやすく整理しようする考え方や様々な場面で求められる適切な判断、人に何かを伝えようとする際の表現力を高めたい。なお、本単元で学ぶ知識及び技能は、今後、学習する「方程式」を理解する上での基礎となる。

⑶　指導観

生徒観や単元観を踏まえ、本単元における学習展開、指導方法の工夫、評価の進め方、主体的・対話的で深い学びをどのように実現するか、自立と社会参加との関連などを具体的に記述する。

本時では、文字式の割り算をかけ算に置き替えての計算やカッコを展開する時の分配法則の計算手順に重点をおいて指導する。

これまでの指導では、生徒がイメージしやすいよう具体物の活用や難しい各用語の意味や法則などを丁寧に説明してきた。また、学習したことについて理解を整理する目的で生徒同士による用紙にまとめる活動を行い、より理解を深められるよう工夫してきた。

本時は、導入においてこれまでの学習の理解の状況確認のため、見えるカードを活用して、互いに説明し合う場面を設定する。復習内容と新しい学習内容を並行して学べるよう進める工夫を行い、計算規則の理解の定着を目指す。

３　児童生徒の実態

氏名（記号）	生活全般の実態	単元に関する実態
A	やり遂げようとする思いが強い。体幹に不安定さがあり、学習時は書見台を使用している。緊張が強く、教科書をめくったり、字を書いたりするのに時間がかかる。1.5cm 角程度の字を書く。質問の内容について正しく答えることができる。	同類項をまとめることはできるが、異符号の係数の足し算を間違えたり、カッコを外す際の符号を間違えたりすることがある。声をかけると間違いに気づき、間違いを正すことができる。
B	質問に対して答えるなど、簡単な日常会話ができる。教科書の音読や読み物の内容の理解、学んだことの説明は苦手である。線や形を正確に捉えることが難しい。	九九は覚えているが、筆算が定着していないため乗法と除法が苦手である。また、計算の途中で文字を書き写すのを忘れてしまうことがある。

４　単元構成

⑴　共通目標

ア　文字を用いる必要性を理解し、一次式の加法と減法の基本的な計算ができる。文字を用いた式での乗法と除法の表し方を知る。（知識及び理解）

イ　具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現する。(思考力、判断力、表現力等)

ウ　様々な事象を文字や文字を用いた式で捉え、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題解決に活用して考えようとする。（学びに向かう力、人間性等）

⑵　単元の評価規準

（ア）知識及び技能	（イ）思考力、判断力、表現力等	（ウ）学びに向かう力、人間性等
①項や係数など用語の意味を理解している。 ②加法と減法における項のまとめ方を理解している。 ③文字を用いた式の乗法と除法をその表し方に従って表すことができる。 ④カッコの展開を含む基本的な一次式の加法と減法の計算ができる。	①式が何を意味しているのかを考えることができる。 ②一次式の加法と減法の計算の方法を数の計算に関連付けて考えることができる。 ③一次式の加法と減法の計算の方法を具体的な日常生活の場面と関連付けて考えることができる。	①文字を用いて式に表したり、式の意味を読み取ったりしようとする。 ②文字を用いた式の計算に関心をもつ。 ③計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。

本単元における各観点の目標の具体的な評価規準を示す。

⑶　個人目標

氏名（記号）	単元に関する目標	教育支援プランＢの目標
A	・手順書などを活用しながら、主体的に計算問題に取組む。 ・問題解決の見通しや、振り返りを自分の言葉で表現する。	・基礎的な概念や原理・法則を理解し、教員の助言や補助具を手掛かりにしながら、具体的な事象を数理的に捉えたり、式やグラフなどで表現・考察できる。 ・事象について粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って検討しようとする。
B	・手順書や電卓を活用したり、教員とやり取りしたりして、計算問題を解く。 ・教員の発問を通して問題解決の見通しや理解したことを自分の言葉で表現する。	・基礎的な概念や原理・法則を理解し、教員とのやり取りを通して、具体的な事象を式やグラフで数理的に表現できる。 ・教員の発問を受けながら、問題を解決した過程を振り返り、自分の言葉で表現する。

一人ひとりの児童・生徒の単元の個人の目標を示す。

５　指導計画（全７時間）

	授業目標	授業時数
1	棒の本数を求める式からその求め方を読みとって、説明することができる。	1
2	項と係数の意味を理解し、文字の部分が同じ項を１つの項にまとめることができる。	1
3	一次式の加法や減法の計算ができる。	2
4	一次式の乗法や除法の計算ができる。カッコのある一次式の加法と減法ができる。	本時３／４

６　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

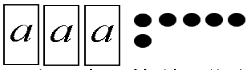
授業の流れは、①問題を理解する、②見通しをもつ、③解決する、④解決の過程を振り返る、である。生徒の主体性を引き出すにはまず、生徒自身が学習の意味が分かることが大切である。授業の始まりには、本時の学習の目標を示すことにしている。そして、生徒が本時の学習過程の見通しをもてるよう、活動の流れをつかめるように発問をしていく。授業では、新しい課題を取り入れる他に、復習事項にも繰り返し触れられるようにプリント問題や発問の仕方に配慮している。併せて、生徒自身が学習を受ける側ではなく、学習に自ら関わる側となるような学習の流れにしていきたい。授業では、主体的・対話的で深い学びの視点を意識して、生徒の考えを発問で引き出し、それを発表し、相手と自分の考えを擦り合わせられるような場面を設定する。様々な課題に対して、相手の意見を聞き入れ、適切な判断ができるような広く捉える視点をもてるようにしたい。

7　本時の構成

⑴　本時の目標

		本時に関する目標
共通目標		ア　一次式の除法が乗法に直して計算できることを知り、分配法則を用いて文字式の除法ができる。 イ　間違えた計算のどこが間違えているのかが分かり、正しくはどのようにすべきかを説明することができる。 ウ　計算の方法を考えたり、計算したりしようとする。
個人目標	A	ア　手順書を確認しながら分配法則を用いて一次式の除法ができる。 ウ　積極的に発言することができる。
	B	ア　手順書を確認したり、教員の助言を受けたりしながら、分配法則を用いて一次式の除法ができる。 イ　間違えている箇所を見て、どのようにすれば良いか教員とやり取りしながら説明できる。 ウ　教員の発問に対して、自分が思ったことを発言することができる。

⑵　展開（備考評価欄の（ア）①などの記号は８備考に示す単元の評価規準に対応している）

段階配時	学習活動	指導上の留意点（○指導の手立て）A	B	備考評価
導入 ８分	始まりの挨拶	注目していること、授業準備がされていること、姿勢などを確認してから挨拶する。		
	1　これまで学んできたことを振り返り、本時の目標を提示する。 (1)用語の確認をする。 かるた形式で確認する。 最後に残った２枚は生徒が例を示して説明する。 (2)本時の学習目標を知る。 目標：分配法則を用いて一次式の除法の計算をする。 Q　$(3a+6)\div3$ はどう考える？	カードを配布したら、それぞれのカードを声に出して１度読み上げ、生徒が自ら思い出す時間をつくる。 除法・分配法則のカードが最後に残るようにして、印象付ける。 ○教員が説明ボードに代筆する。	○説明が難しい場合、発問により引き出す。	(用語) 項、係数、一次式、分配法則、乗法、除法 説明ボード（ホワイトボード） 学習活動に関わる評価規準を示す。 (ア)①
展開1 30分	2　一次式の除法の計算の仕方 プリント配布 (1)式の意味の確認 カードを使って $(3a+6)\div3$ がどのような事を表すかを確認する。 	カード操作して、式がどのような状態を表しているかイメージできるようにする。 ○操作しやすいように厚みのあるカードを用いる。		プリント１ カード
	(2)商の表し方を簡単に復習 復習　$x\div7=\frac{\square}{7}$　←*復習* $=\frac{\square}{7}\times x$　←*ポイント* わり算はかけ算に書き換えられる 練習問題　①a÷5　②2a÷8	穴埋め問題で、ポイントを絞って考えられるようにする。 ○練習問題は、生徒自身で解くのが難しい場合は、計算式に赤線を引くなどして考え方が見て分かるように示す。 練習問題の答えの確認は個別に行う		(イ)①
	(3)例題 $(3a+6)\div3=(3a+6)\times\frac{\square}{\square}$ $=3a\times\frac{\square}{\square}+6\times\frac{\square}{\square}$ $=\frac{3}{3}a+\frac{6\times1}{3}$ $=a+2$	発問により生徒の積極的な発言を促す。 発問を繰り返し、発問に関しての答えを板書しながら計算を進めていく。 既習の分配法則を用いることに注目できるよう朱書きの矢印で示し強調する。 ○答えづらいようであれば、板書（矢印や空欄等）を加え、ヒントを与える。 答えの $a+2$ が式の途中のように感じる生徒がいるので、これで終わりであることを強調する。		(ア)③ 手順書
	$(16x-8)\div4$について同様に取組む (4)　演習　（プリント） ①$(20x+15)\div5$　②$(16a-8)\div4$ ③$(48x+24)\div(-6)$	○手順書を配る。 ①②は机間巡視で個々に答えを確認する。③は板書して答えを丁寧に確認する。	○２桁のかけ算には電卓を用いる。	(イ)① (ウ)③ プリント２ (ア)③④ (ウ)③

展開２ ８分	３　計算式のどこが間違えているかを見つけて正答を説明する。 $(16a-8)\div(-4)=(16a-8)\times(-\frac{1}{4})$ $=16a\times(-\frac{1}{4})-8\times(-\frac{1}{4})$ $=-\frac{16}{4}a-\frac{8\times1}{4}$ $=-4a-2$	はじめは３分程度個別に考察する。 ○考え方が分からない場合は手順書を見ながら確認して良いことを伝える。 答えを確認する際は、どこがおかしいと思ったかを最初に発問し、段階的に考えられるようにする。 既習内容との応用となるが、生徒のつまずきやすい部分であるので丁寧に確認する。		(イ)① (ウ)③
まとめ ４分	４　プリントに本日学んだことを文章で書き込む。	○個別のプリントに記入する。	○教員とのやり取りを通して支援する。	(イ)① (ウ)③
	終わりの挨拶			

８　本時の評価

⑴　児童生徒の学習評価

ア　共通評価

	(ア) 知識・技能			(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①項や係数など用語の意味を理解している。	③文字を用いた式の乗法と除法を表し方に従って表すことができる。	④カッコの展開を含む基本的な一次式の加法と減法の計算ができる。	①式が何を意味しているのかを考えることができる。	③計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。
具体的な生徒の様子	・用語の確認で正しいカードを選択できたか。 ・用語の説明ができたか。	・割り算をかけ算に変換できたか。 ・かけ算にしたものを係数と文字に分けて表記できたか。 ・－符号の掛け算を正しく扱えたか。	・分配法則を用いてカッコ内のそれぞれにかけ算できたか。	・例題の式の計算の過程を説明できたか。 ・まとめで学習の内容を表現できたか。	・発問に対して考えている様子が見られたか。 ・カードの操作をしようとしていたか。 ・手順表などを自ら確認する様子が見られたか。

単元の評価規準から本時と関係する評価規準を示す。

本授業において、具体的にどのように評価するかを具体的、段階的に示す。

イ　個別評価

A	ア　計算問題に対して主体的に取り組み、問題を解くことができたか。 ウ　授業全体を通して積極的に発言する姿が見られたか。
B	ア　手順書や電卓、教員とのやり取りを通して計算を進めることができたか。 イ　間違えている箇所を見て、教員とのやり取りに答えて正しい答えを導くことができたか。 ウ　教員の発問に対して、自分の言葉で発言できたか。

⑵　教師の指導の評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

ア　授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

・導入で行われていた説明し合う場面（学び合いの場面）をもう少し授業の中に設定すると、生徒が主体的に学習に取り組めるのではないか。

イ　教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

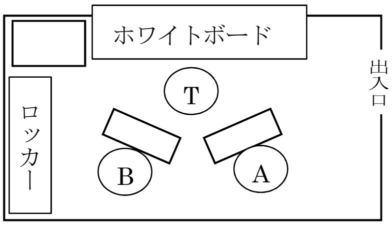
・発問やプリントによるスモールステップで、生徒がつまづかずに思考できたのは良いが、発問が誘導的に感じる場面があった。生徒の自由な発想を大切にしながら進められるとなお、良いと感じる。

ウ　自由記述（授業について気付いたことがありましたら記入の上、指導者に提出してください。）

・学習内容を生徒が言語化したり文章化したりして振り返るのは、理解だけでなく、表現力も高まり良い取組だと思う。

９　備考

⑴　教室内配置図



※備考には、ここに示してある以外にも板書計画を示したり、教材の写真を示したりすることも考えられる。

⑵　参考資料

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校　数学）」（国立教育政策研究所　教育課程研究センター，2011）

3　略指導案

中学部３年　類型Ⅱ　数学科　学習指導略案

１　単元名　　「【数と式】　文字式の計算」
２　日　時　　令和○○年 ７月○○日（○曜日）　第３校時　１０：４５～１１：３５
３　場　所　　中学部学習室Ｂ

単元観、指導観と関連付けて、本授業の単元設定の理由を数行で簡単に示す。

４　題材設定の理由

本学習グループは男女各１名で構成されている。本単元では加法と減法を中心とした基本的な一次式の計算を身に付ける。本授業においては、文字式の割り算はかけ算に書きかえて計算できること、そしてカッコを展開する時の分配法則の計算手順の定着に重点をおいて指導する。指導に当たっては、具体物を操作したり、生徒同士で説明し合ったりすることで主体的な学びと学習内容の定着を目指す。なお、それぞれの生徒の困難さに応じて、環境の整備や教材、教具の工夫、補助手段の活用や丁寧な説明を行う。

５　指導計画（全８時間扱い）
⑴　棒の本数を求める式を考えてみよう　・・・・・・・・・・・　１時間
⑵　同じ文字を含む項をまとめることを考えてみよう・・・・・・　１時間
⑶　一次式の加法と減法について考えてみよう・・・・・・・・・　２時間
⑷　一次式の色々な計算について考えてみよう・・・・・・・・・　４時間（本時３／４）

６　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

生徒が主体的に学習に取り組むためには、ゴールを知ることが大切であると考え、生徒には本時の目標を示し、生徒自身が見通しをもてるような発問をすることにしている。また、考え方の助けとなる既習事項を随時確認するなど、主体的に課題解決に向けて取り組めるよう、プリント問題や発問の仕方を工夫している。できるだけ生徒自身が活動できるような場を設定し、主体的な課題を引き出せるよう、工夫をしていきたい。生徒の考えを発問で引き出したり、発表したりして共有することも重視する。これは、対話的な学びのみならず、自分と違う意見や視点を知り多角的に課題を見ることなど、深い学びにつながると考える。

７　本時の目標

観点別に示す。必ずしも全ての観点を目標にする必要はない。

・分配法則を用いて文字式の除法ができる。（知識及び技能）
・計算のどこが間違えているのかが分かり、どのようにすべきか説明できる。（思考力、判断力、表現力等）
・計算の方法を考えたり、計算したりしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

８　本時の展開

時間	学習活動	指導・支援の手だて及び指導上の留意点	備考
８分	始まりの挨拶 振り返り （用語の確認）	○姿勢と授業の準備を確認する。 ○本時に関係する「除法」、「分配法則」は最後に残し、生徒同士でボードを使って説明し合う。	○用語カードを配る。 ○説明ボードを使う。
	目標の提示	○板書し、生徒が読みあげて確認する。	○目標：分配法則を用いて一次式の除法ができる。
30 分 （4 分）	除法の計算の仕方 (1)式の意味の確認 $(3a+6) \div 3$ の意味を考える。	○カードを用いて実際に操作する。カードを取るのが難しい生徒は、厚みのあるカードを使用する。	○プリント１を配る。 ○操作用カードを配る。
（6 分）	(2)商の表し方 $x \div 7 = \frac{\boxed{x}}{7} = \frac{\boxed{1}}{\boxed{7}} \times x$	○穴埋めのプリントでポイントを絞って考えられるようにする。	○商を積の形に直すことを強調する。
（10 分）	(3)例題 $(3a+6) \div 3$	○分配法則は朱書きの矢印で強調する。 ○その他、発問に対して生徒が答えづらい場合は板書を加えてヒントを与える。	
（10 分）	(4)演習 ①$(20x+15) \div 5$	○いつでも計算手順を確認できるようにする。	○プリント２と手順書を配る。

	②$(16a-8)\div 4$ ③$(48x+24)\div(-6)$	○計算の苦手な生徒には電卓の使用を促す。	○拡大プリント
8分	間違い探し	○段階的に考えられるように発問する。	○間違えの箇所は1箇所とする。
4分	まとめの記入 終わりの挨拶	○記入が難しい場合は、教員が発問しながらその内容を記入できるようにする。	○生徒は本時の学習内容を説明する文章を書く。

9　準備物

説明ボード、用語カード、操作用カード、手順書、プリント1、プリント2、拡大プリント

10　本時の評価

ア　生徒の学習評価

	(ア)知識・技能			(イ)思考・判断・表現	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①項や係数など用語の意味を理解している。	③文字を用いた式の乗法と除法を表し方に従って表すことができる。	④カッコの展開を含む基本的な一次式の加法と減法の計算ができる。	①式が何を意味しているのかを考えることができる。	③計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。
具体的な生徒の様子	・用語の確認で正しいカードを選択できたか。 ・用語の説明ができたか。	・割り算をかけ算に変換できたか。 ・かけ算にしたものを係数と文字に分けて表記できたか。 ・－符号の掛け算を正しく扱えたか。	・分配法則を用いてカッコ内のかけ算ができたか。	・例題の式の計算の過程を説明できたか。 ・まとめで学習の内容を表現できたか。	・発問に対して考えている様子が見られたか。 ・カードの操作をしようとしていたか。 ・手順表などを自ら確認する様子が見られたか。 ・まとめで計算の方法について書こうとしたか。

※ここに示したものは、評価規準を用いた場合の評価の例である。評価に関しては、授業の目標が達成された姿を具体的にかつ段階的に示すとよい。

⑵　教師の指導評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

記入例：

・導入で行われていた説明し合う場面（学び合いの場面）をもう少し授業の中に設定すると、生徒が主体的に学習に取り組めるのではないか。

・まとめで書いた文を発表し合った方が良いのではないか。

・発問によるスモールステップで、生徒がつまずかずに思考できたのは良いが、発問が誘導的に感じる場面があった。生徒の自由な発想を大切にしながら進められるとなお良いと感じる。

⑶　自由記述（授業について気づいたことがありましたら記入の上、T1に提出してください。

記入例

・学習の実態差がある中２人とも良く学習に取り組んでいたと思う。学習の目的が一次式の計算手順の定着なので、今回は電卓の使用は良いと思うが、２桁のかけ算ができないという課題に対しては、どのように取り組んでいくのだろうかと思った。学習内容を生徒が言語化したり文章化したりして振り返るのは、理解だけでなく、表現力も高まり良い取り組みだと思う。

※授業評価は、ここに示している形以外にも、評価の視点のチェックリストを提示したり、具体的な質問項目を設けたりするなどの方法も考えられる。また、授業評価の部分だけ別紙にしても良い。

第２節　自立活動を主とする課程の実践事例　小学部２年（類型Ⅳ）

１　年間指導計画　小学部２年（類型Ⅳ）教科別の指導「国語」

月	題材名	授業時数	授業目標	評価
4月 5月 6月 7月	「あぶくたった　にえたった」	１３	①「あぶくたった　にえたった」で使われる言葉のもつ音の響きやリズムに触れ、動作化して親しむ。(知識及び技能) ②教師の言葉かけに応じ、音声で模倣したり、表情や身振り、簡単な言葉で表現したりする。（思考力、判断力、表現力等)	言葉のリズムに合わせて体を揺らしたり、腕を振ったりするなど、どの児童も言葉のリズムを感じることができた。パネルシアターや実物を提示したり、実際の活動を取り入れたりすることで、言葉を視覚化、具現化することにつなげられた。言葉のリズムが耳に残りやすく、活動の切り替えの合図になり、見通しをもたせやすい題材であった。
9月 １０月 １１月 １２月	「はらぺこあおむし」	１５	①言葉のもつ音やリズムに触れ、果物模型を見たり触ったり、動作化する中で言葉が表す事物のイメージにふれる。(知識及び技能) ②青虫のパペットに注目し、話し掛けに発声や仕草、表情等で応じたり答えたりする。　(思考力、判断力、表現力等)	
1月 2月 3月	「ぐりとぐら」	8	①物語の中の活動を視覚化したり、体験したりすることを通して言葉が事物の内容と結び付くことを感じる。(知識及び技能) ②読み聞かせに応じ、教師からの話しかけに関心をもって話し手を見たり、音声で模倣したり、表情や身振り、簡単な言葉で表現したりする。(思考力、判断力、表現力等)	

授業目標を設定する際には「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の観点を考慮して作成。
実態に応じて３観点全て入れなくてもよい。

題材終了後、学習を通してよかった点、児童生徒の変容、授業における課題、改善点等を端的に記す。

２　本指導案

小学部　２年　重複３組　類型Ⅳ　教科別の指導「国語」学習指導案

日　時　令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇）
第〇時　〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
場　所　〇〇〇〇
指導者　〇〇〇〇（ T1）〇〇〇〇（T2）
〇〇〇〇（T3）

１　題材名「あぶくたった　にえたった」

２　題材設定の理由

⑴　児童観

本学級は、２年生４名の児童で構成され、類型Ⅳの教育課程で学習している。支持歩行が可能であるが、左側のマヒはある児童や四つ這いで自力移動が可能な児童、首が据わっておらず座位姿勢の保持が困難な児童など、様々な実態の児童がいる。どの児童も危険認知が未熟であり、医療的ケアを必要とする児童であるため、安全面や健康面での配慮が必要である。児童の多くは、発達が未分化であることが多いが、日常で使われている簡単な言葉かけには雰囲気を察知したり理解できたりする。表出に関しては、「はい」、「いいえ」などの意思を表情や仕草、発声で答えようとする姿も見られるが、確実な表出にはなっていない。スムーズなやり取りが難しく、急に泣く、わめく、怒るなどで不快な感情を表現する児童もいる。どの児童も意思をもってはいるものの、その表現がうまく行われずイライラ感が募ったり、また自分の世界に入り視線が合わず、やり取りがしにくかったりなどコミュニケーションでの課題を抱えている。実態差はあるが、人間関係の形成をベースにしながら適切な支援を行うことで、言葉が表すイメージに触れたり、内容を感じとったりする力が育つ児童であると考える。

⑵　題材観

本題材は、パネルシアターを活用し、日本の伝承遊びを取り入れた内容となっている。「♪あぶくたったにえたった～」、「♪とんとんとん、何の音?」など一連のフレーズが、小気味よい言葉のリズムを刻みながら何回も唄われ、次の活動への合図となっている。児童の耳に残りやすいフレーズを使うことにより、活動の節目が分かりやすく次の活動への期待感を誘引するきっかけとなる。

また、「とんとんとん、何の音?」の後に来る活動は、お化けかそうでないかを児童たち自身が注意深く「見る」、「聞く」活動であり、児童が楽しさに期待をもてる活動である。

更にパネルシアター「あぶくたった　にえたった」は、「音声を見える化」できる。魅力的な音のリズムから始まるパネルシアターは、「見る」ことに課題のある児童にとって効果的な教材である。また、「むしゃむしゃむしゃ　食べてみよう」などの「食べる」（つもり活動）の活動を取り入れ、言葉を動作化して活動を広げられる。音とイメージ、音と活動の一致により、児童の思考力・判断力の向上、更に概念形成へとつながっていくと考える。

本題材は、言葉と事物を結び付けイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養うことをねらっている。知的障害である児童に対する教育を行う特別支援学校学習指導要領の国語の小学部１段階の目標及び内容を指導するものである。

⑶　指導観

本授業は「コミュニケーション」や「人間関係の形成」等の自立活動の指導内容に深く関わる学習活動で構成し、指導に当たっては児童個々の自立活動の指導計画に関連させて展開する。児童の実態から音声言語だけではイメージがもちづらいため、言葉と視覚、言葉と活動などを連動させた授業を展開していくことが効果的であると考える。

> 「指導観」では、児童（生徒）観及び題材（単元）観を　踏まえ、障害等に応じた手立てや他の教科等との関連、発展性など「どのように指導するか」を述べる。

本授業では「言葉と事物を結び付ける」ことと「意思を表現する」ことを大きな柱として構成する。言葉と事物が結びつくことで言葉の持つ意味が理解できるようになり、児童の生活の広がりにつながっていく。視覚的な支援や実際の活動を取り入れていくことを大事に取り組んでいく。意思を表現することにつなげる手立てとしては、教員との信頼関係をベースに、やり取りを活性化させることを大切に展開する。伝えたい思いを膨らませると同時に、児童が「自分の思いが伝わった!」という手応えを感じることで「もっとこの人に伝えたい」と表現する意欲は高まっていくと考える。

児童の要求やイメージした事物や事柄を表せるよう実物や絵カードなどを活用し、児童の意思を汲み取り、返していくことを丁寧に行いたい。「話し言葉」（音声言語）を獲得する前のノンバーバル（表情や仕草による）コミュニケ―ションが重要であると考え、心の言葉を反映する表情や視線、仕草、発声等を豊かに育てていきたい。

3 児童の実態

児童	生活全般の実態	題材に関わる実態
A	・日常生活全般において支援を要する。 ・コルセット着用。側彎あり。首が据わっておらず、自力での座位保持、寝返りは困難。車椅子、座位保持椅子使用。 ・経鼻経管栄養。 ・人間関係の形成は良好であり、社会性がある。	・「見る活動」においてよく注目し、期待感をもって臨める。 ・「○○しよう」などの簡単な言葉理解があり、雰囲気を敏感に感じ取ることができる。 ・表情や発声、右手の動きで教員への問いかけにこたえ、やりとりを行う。
B	・日常生活全般において支援を要する。 ・不安定だが座位が可能。支持歩行やウォーカーでは足を交互に動かす。学習時は座位保持椅子を使用。 ・お腹が空いたり、意思が伝わらないと、泣いたり、怒ったりして表現する。	・聴覚優位。見る活動が苦手であるが、興味のあるものは注視する。 ・歌やコマーシャルを口ずさむが、会話になりにくい。 ・「ちょうだい」などの簡単な理解言語がある。
C	・日常生活全般において支援を要する。 ・不安定だが支持歩行やウォーカーで歩行できる。学習時は座位保持椅子を使用。危険認知が少なく、体幹がしっかりしていないため、転倒しやすい。ヘッドギア使用。	・リズム感が良く、リズムに合わせて手をたたいたり、体を揺らしたりする。 ・注視、追視が苦手であるが、目の前の活動に対しては、状況を理解して取り組める。 ・感覚過敏の傾向がある。 ・「ちょうだい」などの簡単な理解言語がある。
D	・日常生活全般において支援を要する。 ・首は座っているが、座位保持、寝返りは支援が必要。車椅子、座位保持椅子使用。硬直型のマヒがあり、活動に取り組もうとすると力が入る。 ・生活リズムが整いにくく、睡眠不足のことが多い。人懐こく人間関係の形成は良好である。	・お腹が空いたり、意思が伝わらなかったりすると、嫌な表情や大きな声を出して表現する。意思がはっきりしている。「○○する?」などの簡単な言葉の理解がある。

4 題材の構成

⑴ 共通目標

①「あぶくたった　にえたった」で使われる言葉のもつ音の響きやリズムに触れ、活動を通して言葉が事物の内容を表していることを感じる。（知識及び技能）

②パネルシアターの提示や教員の言葉かけに応じ、音声で模倣したり、表情や身振り、簡単な言葉で表現したりする。（思考力、判断力、表現力等）

⑵ 個人目標

児童	題材に関する目標
A	・パネルシアターに注目し、実際の活動を行う中で言葉と事物を結び付ける。（知識及び技能） ・教員からの働きかけに表情や発声、行動で応え活発にやりとりを行う。（学びに向かう力、人間性等）
B	・パネルシアターに興味を持ち、注目し、言葉の響きやリズムを体で感じる。（知識及び技能） ・場面ごとの活動を理解し、意欲的に取り組む中で発声や身振りで意思を表現する。（思考力、判断力、表現力等）
C	・言葉のリズムを楽しみ、リズムを体や声で表現する。（知識及び技能） ・パネルシアターに注目し、追視を行いながら教員の言葉かけに応じる。（思考力、判断力、表現力等）
D	・「むしゃむしゃむしゃ　食べてみよう」、「何の音?」などの言葉と共に活動することで言葉の意味を理解する。（知識及び技能） ・教員からの働きかけに、表情や発声や身体の動きなどで気持ちを伝えようとする。（学びに向かう力、人間性等）

5　指導計画

	授業内容	授業時数
1	パネルシアター「あぶくたったにえたった」～自然界の音～ 言葉のリズムに慣れ、事物を見て聴いて感じる。 「とんとんとん　何の音?」①水の音、②鳥の音、③虫の音、④動物の声、⑤「お化け」(くすぐり)　①～⑤をランダムに繰り返す。	４時間
2	パネルシアター「あぶくたったにえたった」～楽器・人工的な音～ 言葉のリズムと共に楽器がどんな音がするのか実際の活動を取り入れながら展開する。 「とんとんとん　何の音?」①ツリーチャイム、②ギターの音、③笛、④太鼓、⑤お化け(くすぐり)　①～⑤をランダムに繰り返す。	２/５時間(本時)
3	「あぶくたったにえたった」活動バージョン 鍋や戸棚等を使い、教室を家の中に見立て身近な音を聞き分けながら実際に活動する。 「とんとんとん　何の音?」①風の音、②犬の声、③車の音、④おならの音など、⑤「お化けの音」でお化けが登場し、お化けに食べられる。①～⑤をランダムに繰り返す。	４時間

6　本時の構成

・育成を目指す３つの柱の観点から、必要な観点を取り上げる
・個人の目標は各実態課題に応じてより具体的に個別に設定する

⑴　本時の目標

	本時に関する目標
共通目標	①「むしゃむしゃむしゃ　食べてみよう」、「とんとんとん　何の音?」など言葉のもつ音やリズムに触れ、言葉が表す事物や活動のイメージを体験する。(知識及び技能) ②パネルシアターに注目し、教員からの働きかけに発声や表情、身振りで気持ちを表現する。(思考力、判断力、表現力等)
A	・パネルシアターに注目し、「食べてみよう」や「何の音?」など動作を表す言葉を楽しみながら体験する。(知識及び技能) ・教員からの働きかけにやりたい時には手を伸ばしたり、表情や発声で応えたりする。(思考力、判断力、表現力等)
B	・周囲を気にせずパネルシアターに注目し、場面に応じてじっくり音に耳を傾ける。(知識及び技能) ・教員からの働きかけに応じ、視線を合わせながら教員とやりとりを行う。(知識及び技能)
C	・パネルシアターに注目し追視する中で、音の響きやリズムを感じ、発声や身振りで表現する。(知識及び技能) ・楽しい活動を通して、教員を支えに楽器に触れる。(思考力、判断力、表現力等)
D	・パネルシアターに注目し、言葉が表す事物を見聞きし体験する。(知識及び技能) ・教員からの働きかけに「やりたい」、「やりたくない」等を表情や発声で応える。（思考力、判断力、表現力等)

⑵　展開

<table>
<tr><th>配時</th><th>学習活動</th><th colspan="4">指導上の留意点(○指導の手立て・※評価の観点)</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>導入
５分</td><td>１始まりの歌・挨拶</td><td colspan="4">○児童と視線を合わす等、児童が注目できるようにする。</td><td rowspan="5">車椅子
座位保持椅子

パネルシアター</td></tr>
<tr><td rowspan="4">展開

30 分</td><td rowspan="4">２パネルシアター「あぶくたったにえたった」～楽器バージョン～

①　パネルシアター
♪～「あぶくたった煮え立った、煮えたかどうだか食べてみよう」、「むしゃむしゃむしゃ」(児童の体に触れる)
②「まだ煮えない」</td><td colspan="4">○パネルシアターに注目できるよう見やすい位置と姿勢に配慮する。
○抑揚をつけて期待感が高まるように提示する。(T1)
※パネルシアターに集中して見ることができたか。</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr>
<tr><td>○姿勢が左に傾かないように右側に立ち提示する。(T1)</td><td>○注目しやすいように衝立を立てる。(T2)</td><td>○注目しにくい場合は絵人形を手元に提示する。(T3)</td><td>○共感の視線を向ける。(T1)</td></tr>
<tr><td colspan="4">○「とんとんとん、何の音?」で、耳を澄ませられるよう静かな時間(間)を作る。
※パネルシアターを見ることに集中できたか。
※耳を澄ませ、聞くことができたか。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="6"></td><td rowspan="6">(①②繰り返す)
③「もう煮えた」、「お鍋に蓋して、戸棚に閉まって、お布団しいて寝ましょ」
④「とんとんとん何の音?」、「ツリーチャイムの音」
ツリーチャイムの音に耳を澄ませる。
「あー良かった。」
～♪
ツリーチャイムの絵人形(パネルシアター)と実物、音色が一致する。
⑤ツリーチャイムにふれる(体験)
⑥もう一回やるかどうか子供たちにその都度尋ねる。
次へ期待をもたせ、①へ戻る。
①～繰り返し、④⑤はギター(体験)お化け(くすぐり)、太鼓(体験)を行う。</td><td>※何かわかった時に表情が変化したか。</td><td>○注視しにくい場合は手元で提示する。
※手や頭などの動きを止め、耳を傾けられたか。</td><td>○追視しにくい場合は手元から少しずつ距離を離しながら提示する。
※パネルシアターを注視できたか。</td><td>※イメージした後、表情が変化したか。</td><td rowspan="8">楽器類
・ツリーチャイム
・ギター
・太鼓</td></tr>
<tr><td colspan="4">○ツリーチャイムはどれか。音声と実物と絵人形(パネルシアター)のマッチング。一人一人に尋ねる。(T1～T3 対応)手元で絵人形を提示し、選択させる。</td></tr>
<tr><td>○手元で絵人形を提示し、二択で選べるようにして、右側からアプローチを行う。</td><td>○近くで実物を二つ提示し選べるようにする。</td><td>○視線を合わせ、実物を二つ提示し選べるようにする。</td><td>○手元で実物を提示し、絵人形を選べるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="4">○ツリーチャイムに触れやすいように、配置と姿勢に配慮する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">○一人一人と視線を合わせながらもう一回やるかどうか尋ねる。</td></tr>
<tr><td>※表情や手を伸ばす身振りで意思表示できたか。</td><td>※視線を合わせ、音声や手振りで意思表示できたか。</td><td>※視線を合わせ、身振りで意思表示できたか。</td><td>※表情と発声で意思表示できたか。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">振り返り
10 分</td><td rowspan="2">３振り返り
今日取り組んだことの実物、絵人形を選ぶ。感想発表。
おわりのあいさつ。</td><td colspan="4">○今日の活動を実物やパネルシアターの絵を用いて振り返る。</td></tr>
<tr><td>○具体物や絵人形を用いて、やりとりする。</td><td>○手元で実物を提示し、尋ねる。</td><td>○手元で実物を見せ尋ねる。</td><td>○実物や絵人形を提示し、やりとりする。</td></tr>
</table>

7　本時の評価

⑴　共通の評価

①言葉のもつ音やリズムに触れ、身体を揺らしたり表情を変えたりするなどして意欲的に取り組めたか。(知識及び技能)

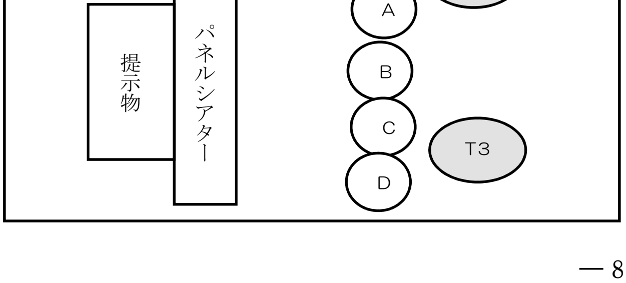
②パネルシアターに注目し、教員からの働きかけに応じ、発声や表情、身振りで表現できたか。(思考・判断・表現)

③「とんとんとん　何の音?」の次に来る活動を期待し、意欲的に授業に取り組めたか。

⑶　個別の評価

A	①　言葉が表す事物を実物や絵人形を使って選ぶことができたか。(知識・技能) ②教員からの働きかけに表情や身振りで応えられたか。（思考・判断・表現)
B	①パネルシアターに注目できたか。(思考・判断・表現) ②いろいろな音に手や頭などの動きを止め、耳を傾けられたか。（思考・判断・表現) ③教員と視線を合わせ、音声で模倣したり、身振りで意思表示したりできたか。
C	①パネルシアターに注目し、追視できたか。(思考・判断・表現) ②言葉のリズムを感じ、発声や身振りで表現できたか。(思考・判断・表現) ②　教員の働きかけを受け入れ、楽器にふれられたか。
D	②　パネルシアターに注目し、言葉が表す事物や実物を絵人形から選ぶことができたか。(知識・技能) ③　教員からの働きかけに表情や発声で応えられ、やりとりを行えたか。（思考・判断・表現)

8　備考 教室配置



3　略指導案

小学部１年　重複１・２・３組　類型Ⅳ「遊びの指導」学習指導略案

1　単元名　「もふもふゆうえんちへ行こう」

2 日　時　令和○○年○月○○日（○）　第○時　　　○○：○○～○○：○○

3 場　所　○学部○年○組教室

4　単元設定の理由

小学部重複１・２・３組は、身体機能面や認知コミュニケーション面で様々な課題を抱えている１年生７名（男子６名、女子１名）の児童で構成されている。

「もふもふゆうえんちへ行こう」では児童の意欲を引き出すために光を使った教材と空間づくりを行い、①見たい、②触りたい、③能動的に動きたい、という観点に重きを置いた。

①について、光は全ての児童が高い興味を示す要素があり、暗所での光を用いた活動では注視、追視することに課題をもつ児童にとって余計な情報が遮断され注視しやすく、対象の教材へ意識を向けやすい。

②について、見て興味をもった光(教材)に自ら「関わる」体験をさせたい。そのため、風船やオーガンジー、柔らかいチューブなど、少しの力で変化が見て分かり、動きが出やすい教材を用意している。触りやすい位置、気持ちよい感触などに配慮し、かつ光を透過しやすい素材を選定することで児童の触りたい気持ちを膨らませ、結果が本人に伝わりやすい素材だと考える。

③では、手の届く範囲と見やすい高さに配慮し自由に触れる教材・場を設定する。自分が起こしたアクションがすぐ目の前で変化し、確かめられる環境を設定することで、より児童の能動的な動きが引き出せると考える。

この授業では、外界の事象に気付き自分から意欲的に身体を動かし人や物に関わる経験を活発に行うことをねらいとしている。そのため、児童の動きを促す環境づくりだけではなく、教員も環境の一部として授業に臨みたい。活動の主体である児童の意欲を受け止め、児童がわかる形で返し、支援を行う。また、一緒に身体を動かしたり、気持ちを共有したりすることを大切にすることで、人間関係が深まっていくと考える。人や物に能動的に働きかけ、実際に活動し、達成感や喜びを得ることが、内面の育ちにつながり、ひいては社会の中で外界に自ら働きかける児童の姿へとつながっていくと考える。

本単元は、自身の周りの遊びに気付き、物や人と積極的に関わり、遊ぶことをねらっており、特別支援学校学習指導要領における知的障害である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科（生活）の小学部１段階の目標及び内容を指導するものである。また、加えて、教師と一緒に楽しく体を動かし、楽しさを表現し共有することもねらっており、特別支援学校学習指導要領における知的障害である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科（体育）の小学部１段階の目標及び内容を指導するものである。児童の実態から遊びを通した学習活動が効果的であり、各教科等を合わせた指導「遊びの指導」として指導する。

以上の理由から本単元を設定する。

5　指導計画(全８時間扱い)

<table>
<tr><td>回数</td><td>２時間</td><td>２時間</td><td>４時間(本時 3/4)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">使用教材</td><td colspan="3">オーガンジー</td></tr>
<tr><td colspan="3">光る風船</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">光るチューブ</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>光るトンネル</td></tr>
</table>

6　本時の目標

・目の前の光る教材に気付き視線を向ける。(知識及び技能)
・教員からの関わりを受け止めながら教材と関わり、気持ちを表出する。(思考力、判断力、表現力等)
・教員と一緒に身体を動かす。(知識及び技能)

７ 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点（○指導の手立て　※評価の観点）	備　考
導入 ５分	・集合 ・始まりの挨拶 ・移動	○車椅子や座位保持椅子等で児童の姿勢を整えて集合する。 ○始まりを期待できるように各児童に働きかける。 ○期待感を高めるために、児童の目を見ながら教室入口前でカウントダウンをする。	・スピーカー２個 ・デジタルオーディオ
展開 33 分	・オーガンジー ・風船に触れる ・トンネルくぐり 「光遊び」 ・オーガンジー ・風船 ・トンネル ・光チューブ	○入室後は児童の関心や表出（視線や手の動き、発声等）を受け止めながら興味をもった教材に関わることができるよう配慮し移動支援を行う。 ○児童の表情を読み取り、返しながら、主体的に取り組めるよう働きかける。 ○教員は発問せず、静かな時間を作る。児童の動きは制限しない。 ○児童の環境の変化に気付く様子が、表情や身体の動きなどに表れるかを観察する。 ○やりとりを行いながら、好きな光教材で遊べるよう意思を確認しながら支援する。 ※教材の光や音、動きに気付き、視線を向けられたか。 ※見ている教材に、手を伸ばして関わろうとしたか。 ※表情や発声、身体の動きで気持ちを表出できたか。	・オーガンジー（透明、黒） （暗転・光教材点灯） ・ＬＥＤバルーン ・ポリロール ・ポリ袋 ・イルミネーション ・ミラーボールライト３個 ・ＬＥＤテープ５ｍ３本 ・パイプカバー
まとめ ７分	・集合・振り返り ・終わりの挨拶	○各スペースを区切る布とオーガンジーを引き上げる。 ○ＭＴは丁寧に言葉がけを行いながら、カーテンを開けて自然光を取り入れる。 ○児童の環境の変化に気付く様子が、表情や身体の動きなどに表れるかを観察する。 ○それぞれどんな活動を行ったか、具体物を提示しながら振り返りを行う。表情、発声、身体の動きなどの表出を待ち、見られた表出に対して共感を行いながら褒める。 ○児童の実態に応じ、言葉がけと動きの支援を行う。 ※具体物を提示しながら、授業の活動を振り返ることができたか。 ※終わりを理解し、納得して終わることができたか。	（光教材消灯） （明転・カーテンを開ける）

８　授業評価

⑴　前回の授業からの改善点

・消灯した時に光トンネルが児童の視界に入りやすいように位置を工夫した。

・教員も環境の一部であることを意識し、児童の意思を汲み取り、やりたいことを達成できるように支援することを心がける。

⑵　今回の授業に関する評価

・楽しい雰囲気を作り出すことができ、児童が自ら動き出す様子が前回より増えた。児童の目の動きや表情、サイン等を拾い支援することが増えた。

※自由記述（授業について気づいたことがありましたら記入の上、T1 に提出してください。）

・教員の言葉かけが多すぎることと児童が動き出す前に先取りして支援を行ってしまっていることが多いので児童が動き出すのを待ち、タイミングを見て支援するようにしたい。

４　ポイントを絞った指導案

肢体不自由教育部門高等部　類型Ⅲ「作業学習」 学習指導略案

１　単元名　「文化祭販売準備・『まつぼっくりツリー』を製作しよう」

２　日　時　令和〇〇年１０月〇日（木）　第２・３校時　１０：１０～１２：００

３　場　所　高等部重複１組教室

４　単元設定の理由

・自分が作った製品がお客さまの手に取られ、買ってもらえ、役立ち喜ばれる、また自分はお給料を受け取ることができるといった体験のできる作業・販売を通して、自己肯定感や自己有用感を味わい、卒業後の生活への自信や意欲を高めてほしいと考えた。
・「まつぼっくりツリー」については、製品でありながらも、一品ずつ手作りのよさがあり、作業製品として適すると考えた。
・特別支援学校学習指導要領（高等部）の知的障害の各教科「社会」、「数学」、「職業」、「自立活動」の内容を合わせて指導する。

５　指導計画（全 30 時間扱い）

（１）文化祭販売準備・「まつぼっくりツリー」の製作・・・ 26 時間
（２）文化祭販売のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・４時間

６　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

⑴　主体的な学びの視点

本校の文化祭では、中学部、高等部の作業学習班による販売活動が行われている。そこでは様々な製品が販売されるが、小学部の児童がお小遣いの範囲で、思わず手に取りたくなるようなものは少ない。肢体不自由教育部門高等部の作業学習では、生徒の実態や適性に応じた製品作りを行っているが、それに加えて上記の状況を踏まえ、小さなお客さまにも喜ばれる商品の開発と製作に取り組むこととした。

⑵　対話的な学びの視点

作業学習で製作するものは、お客さまに代金をいただく商品である。お客さまに喜ばれるもの、役立つものでなくてはならず、製作や検品に当たっては、そのような他者からの評価が最大の観点となる。「お客さまに喜ばれるものか＝自分が買いたいものか」を絶えず意識することは、対話的な学びにつながると考えた。

⑶　深い学びの視点

商品を製作するためには原材料が必要であるが、それがはじめから教室に用意されていては、「社会・経済の仕組みや生産の過程を体験的に理解する」というねらいを達成することは難しい。そこで、生徒自身が保護者や教師に依頼して出資を募り、お預かりした出資金から原材料を購入し、その収支を記録しながら、各教科等を合わせた指導としての作業学習を進めることにした。

生徒は責任を感じながら仕事をし、働くことで新たな価値（利益）が生じることを理解し、最終的に給料を受け取る喜びを味わう。これにより、自己肯定感や自己有用感を味わい、卒業後の生活への自信や意欲を高められると考えた。

７　本時の目標

⑴　「お客さまが喜ぶか（＝自分が買いたいか）」を観点として、製作や検品を行う。
（学びに向かう力、人間性等）
⑵　ボンテンは、ボンドを適量つけ、まつぼっくりの頂上付近に３個接着する。（知識及び技能）
⑶　ジュエリーシールの接着位置に迷うなど困った場合は、速やかに相談や報告をする。
（思考力、判断力、表現力等）

8　本時の展開

時　間	学習活動	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備　考
10:10	①あいさつ・作業準備	・姿勢を整えるように促す。 ・身支度や準備を確認する。	※姿勢や作業中の動作、環境設定、用具、水分補給等は自立活動の観点から配慮し、指導する。 ※休憩時間は設けないので、トイレや水分補給は生徒が自ら申告する。
10:15	②本時の作業内容の確認	・製作するものが、文化祭で販売する商品であることを確認する。 ・本時の作業内容、手順、要点、注意事項等について説明する。 ・前時の作業でよくできたこと、難しかったこと、注意が必要なこと等を発言させる。	
10:25	③作業 ボンテン付け、ジュエリーシール貼り、ネイルグリッター塗布 ④検品	・商品見本を見ながら作業するように促す。 ・ボンテンは頂上付近に３個接着する。 ・ジュエリーシールは１品分を切り取っておく。 ・ネイルグリッターは商品見本を参考に塗布する。 ・「お客さんが喜ぶか」を主要な観点とする。	
11:45 11:50	⑤まとめ・あいさつ	・本時の感想を発表する。 ・次回の作業予定を確認する。	

9　準備物

・まつぼっくり（塗装済み）　・ボンテン　・ジュエリーシール　・ネイルグリッター
・ピンセット　・木工用ボンド　・トレイ　・商品見本

10　本時の評価

（1）生徒の学習評価

①「お客さまが喜ぶか（＝自分が買いたいか）」を観点として、製作や検品が行えたか。
②手順、要点、注意事項を守り、商品見本を参考に作業ができたか。
③必要な相談や報告が速やかにできたか。

（2）教師の指導評価（学習環境や教材教具等についての評価を含む）

①前時からの改善点である、ジュエリーシールを貼る位置についての説明指導（商品見本を参考に、はじめは「時計の12時、６時、３時、９時」の位置に、その後は「全体を見て少ないところ」に貼る）は、有効であったか。
②「お客さまが喜ぶか（＝自分が買いたいか）」を観点とする検品で、どのような意見が出たか。

※自由記述欄

検品時、生徒に商品として売れると思うか聞いたところ、「売れる、売れる！」という声が上がった。しかし、自分が買いたいか、もう一度確認するように促すと、「塗料の垂れがあるから買いたくない」、「ジュエリーシールが少ない」といったものが見つかった。

＜文化祭で販売した商品＞

まつぼっくりツリー

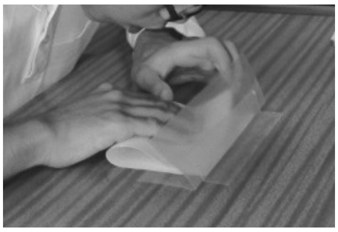
＜作業学習の様子＞

ボンテンの接着

＜給料を受け取る＞

給料袋

＜現場実習の準備＞



Ａ４紙の四つ折り作業

第５節　特別の教科「道徳」の指導の実践事例　小学部３・４年（類型Ⅰ・Ⅱ）

１　年間指導計画　小学部３・４年（類型Ⅰ・Ⅱ）道徳

月	授業名	授業時数	授業目標	評価
４月	「友だち屋」 「電話のおじぎ」 「千ばづる」	３	・本当の友達とは、互いに相手を思いやれる対等な関係であることが分かり、よりよい友人関係を育てようとする。 ・真心の意味を知り、礼儀正しい人の態度によさを感じる。 ・正直に行動すれば、心は晴れ晴れとして明るくなることに気付き、自分の心に正直に行動しようとする意欲を持つ。	・新学期を迎え、新しい友達や先生との関係を築くためのきっかけとなった。 ・実際に電話を使っての体験活動は、その後の校外学習等で生かされていた。教員が手本を見せることも有効だった。
５月	「目をさますたね」 「清作のおてつだい」 「心の優先席」 「はた・らく」	４	・植物が持つ不思議な力を知り、植物を大切にしようとする。 ・「家族を思う心」が「人を思う心」のもとになっていることが分かり、自分に出来ることをしようとする。 ・約束や社会のきまりは、人が安心して暮らしたいという心が形になったものであることが分かり、守っていこうとする。 ・人のために働く事の意味や価値を知り、進んで働こうとする。	・自然愛護の観点では、理科等の教科で実感することができるが、社会規範では、公共交通機関等の乗車経験がないことなどから、言葉として理解していても、実生活の中で生かしきれないところがある。そこをどう補っていくかが課題である。（11 月の社会体験学習等で取り組みたい。）
６月	「ドンマイ！ドンマイ！」 「わたしのしたこと」 「いのちのまつり」 「いただきます」	４	・懸命に取り組もうという心が分かると、失敗を許そうとする心が湧くことに気付き、より良い関係を築いていこうとする。 ・親切は時におせっかいになることが分かり、相手の立場や気持ちを良く考えるように心がけ、進んで親切にしようとする。 ・生命は過去から受け継ぎ、未来に受け渡していくものだと分かり、生命の重さを自覚し、大切にして生きていこうとする。 ・自分の生命は他の生命のお陰で成り立っていることが分かり、生命のありがたさを自覚し、大切にして生きていこうとする。	・内容的に自分のこととしてとらえにくい場面（サッカー等）もあったが、そこを休み時間での遊びに置き換えて考えることで、より身近に感じることができた。 ・自分の家族をさかのぼっていくことで、具体的に命のつながりを意識することができた。そこから、命を支えているものへと思いをはせることは容易にできた。教室での飼育も大いに役立った。
７	「キツネのおどり」		・郷土の伝統と文化が今も伝えられている事	・自分と家庭・学校といった狭
２月	「四人五きゃく」 「きょうりょくクラス」 「やくそくだもん」 「赤い灯　ゆれろ」	４	・楽しい学級を作るためには色々な人々の協力が必要だと分かり、自分に出来ることを考えて行動しようとする。 ・相手の気持ちを考え、理解し合っていくうちに友情が深まっていく事が分かり、自分に出来る事を考え、行動しようとする。 ・約束の意義が分かり、それを守って行動していこうとする。 ・友達のためにできることを精一杯行おうとする心の大切さが分かり、助け合っていこうという意欲を持つことが出来る。	
３月	「お日さまの心で」 「海をわたるランドセル」	２	・時と場と相手を考えて公平に接しようとする心と行動が大切であると分かり、だれに対しても公平に接していこうとする。 ・他国の人々の生活や文化を、自分たちとの共通点や相違点を見出して大切さ理解し、自分に出来る事をしていこうとする。	

肢体不自由特別支援学校の児童は、公共交通機関の利用やスポーツなどの経験が少ない場合が多いため、自分のこととして考えやすいように配慮した授業を行う。

その後、ティーム・ティーチングの協力者から評価を得ながら、児童一人一人の学習状況を確かめ、評価を行う。それを教師自らの指導の改善に生かすと共に、担任間で連携して児童の良い点や成長点を日常の指導に生かしていく。

3　略指導案

小学部３・４年　類型Ⅰ・Ⅱ　特別の教科「道徳」学習指導案

1　題材名　「電話のおじぎ」（心をこめて　Ｂ礼儀）

2　日　時　令和〇〇年〇月〇〇日（〇）　第〇校時　〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

3　場　所　小学部〇Ｇ教室

4　題材設定の理由

本題材は、３・４学年内容項目Ｂ「主として人との関わりに関すること」［礼儀］『礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。』をねらいとしている。これは、１・２学年の『気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。』を受け、５・６学年の『時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。』へと発展していく。さらには、［親切、思いやり］とも関連している。

礼儀というものは、社会生活を送っていく上で欠かせないものである。そして、特に挨拶は心と心を通じ合わせるためには不可欠であり、相手を思いやる心をよりよい形で表す第一歩となる。誰に対してもこうした気持ちの振る舞いが自然にできるよう、親しき仲でも礼儀が大切であることに気付かせたい。

本グループは小学部３年生１名（男子）と４年生１名（男子）の２名で、主要教科は３学年の内容を学習している。身体的には、不安定ながら自力移動が可能である。日常会話はほぼ成立し、状況にあわせた会話をすることができるが、興味関心に偏りがあり一方的になりやすい。

そこで、道徳の学習においては、発達段階を考慮した指導を心がけ、語彙力と状況を判断する力を身につけさせたい。そうすることが、今後の生活を豊かにするものと考える。

２名での学習活動では周囲からの刺激や影響を受けにくく、ひとりよがりになりやすい。そこで、身近な題材に触れることで、場面の想像・人物の葛藤、喜怒哀楽を自分のものとして捉え、他者理解を促し、共感性を引き出したい。また、できるだけ追体験を促し実感を伴った学習となるよう配慮する。

5　指導計画（年間指導計画より）

「電話のおじぎ」　・・・・・・１時間（本時）

6　本時の目標

・形や心がそろった礼儀こそ、相手に通じるものであることが分かる。
・誰に対しても心を込めてあいさつし、気持ちよく生活しようとする。

7　本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点 （指導の手だて・＊評価の観点）	備　考
13：05	〇あいさつ	・始まりを意識できるよう言葉かけをする。 ・姿勢に注意する。	
	〇礼儀について考える。 ・「礼儀」の言葉から思うことは？	・ワークシートに記入し発表する。	・ワークシート ・挿絵カード ・リーディング・スリット
13：10	〇本時のめあてを知る。	【めあて】礼儀について考えよう。 ・板書に注目できるよう色を変えて書く。	
	〇「電話のおじぎ」を読む。 ・会話文を登場人物ごとに分ける。	・登場人物になりきって、会話文の読み方を工夫する。なぜ、その読み方になったかを考える。	
	〇おばあちゃんの電話をどんな気持ちで見ていたと思いますか。	・晶子と洋一の会話から考え、ワークシートに記入する。	
	〇晶子がお母さんの言葉にうなずいたのは、なぜでしょう。	・お母さんの会話から、自分はどう思うかを考え、ワークシートに、自分の言葉で記入する。	
	〇おばあちゃんのようなあいさつをすると、どんなよいことがあるでしょう。	・ワークシートに、自分の言葉で記入する。 ＊心が伴ったあいさつによさを感じられたか。	

13:35 13:50	○相手に伝わるあいさつとは、どのようなあいさつでしょう。 ○体験してみよう。 ・教材の電話を使って、あいさつをしてみる。 ○社会や理科で、校外へ行くことを知らせる。 ○あいさつ	・ワークシートに、自分の言葉で記入する。 ＊誰に対しても心を込めてあいさつをしようという気持ちが、高まっているか。 ・自分で考えたあいさつの仕方を実践してみる。お互いに感想を言い合うことで、感じ方の違いを実感できるようにする。 ・今日学習したことを、使えるよう場面設定をして、イメージできるようにする。 ・姿勢に注意する。	・教材『電話』

8　備考
・姿勢に配慮し、カットテーブル・簡易座位保持椅子を使用する。
・書字動作の軽減を図り、ワークシートや芯の柔らかい鉛筆使用等の配慮をする。
・音読時には分かち書きの教材やリーディング・スリットを使用する。

9　授業評価
⑴　前回の授業からの改善点
・国語の学習で取り組んだ音読劇を想起させ、会話文に着目することで登場人物の心情をとらえやすくした。
⑵　今回の授業に関する評価
・実際に電話を使って体験をすることで、実生活の中でのあいさつについて考えることができた。

※自由記述

社会「町たんけん」や理科「ちょうの観察」等では、学校周辺の人たちに取材したりお願いしたりする場面を設け、実体験を促し実感できるようにしたい。

第６節　自立活動指導の実践事例

事例①　中学部１年生

１　実態把握の流れ　（流れ図）

学校・学部・学年	特別支援学校　中学部　第１学年
障害の種類・程度や状態等	・起因疾患　脳性まひ（ＰＶＬ：脳室周囲白質軟化症） ・知的障害を併せ有する肢体不自由（自力での座位姿勢保持、移動は困難）
事例の概要	・表現する力の向上にむけて、肢体不自由の特性を踏まえた自立活動の時間における指導

①　障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
・体温調整が難しいことに加え、身体の緊張が高くなると大量に汗をかき嘔吐や鼻血が出ることもある。 ・「次にやる人？」等の全体への声かけに発声で返事ができる。 ・係の仕事に達成感を持って取り組める。 ・負けたり、うまくできなかったりすると泣くことがある。 ・物との遠近感を捉えたり、速く動くものの追視したりすることが難しい。 ・イラストや提示物の細かな違いには気付きにくい。 ・手を使おうとすると視線が対象に向かなくなってしまう。 ・大きな集会での活動に不安そうな様子を見せる。 ・操作、食事、発声等、意図的に身体を使おうとすると、全身が伸展するように緊張しやすい。 ・座位姿勢の保持や自力での移動は難しい。 ・「いぬ」、「ねこ」等のよく見聞きするものの名称や、よく使う単語（挨拶、動詞）等は概ね理解している。 ・挨拶や授業内で繰り返し使うセリフについて、不明瞭ではあるが場面に応じて発語として表出できる。 ・選択表現は発声で「はい」が言えるが「いいえ」が曖昧である。

②－１　収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・身体の緊張の調節が難しいため、力が入りすぎると体温が上がったり嘔吐したりすることもある。	・新しい活動、慣れない環境を不安に感じやすい。 ・環境を整えれば、自分で気持ちと身体をリラックスできる。	・友達との活動を目的にして活動に参加できる。 ・係の仕事に達成感を持って取り組める。 ・負けたり、うまくできなかったりすると泣くことがある。	・見え方や目の動きに特徴がある。 ・慣れた環境では小集団の中での簡単な指示を理解できる。 ・２０～３０程の身近な単語は概ね理解している。 ・大きな集会での活動に不安そうな様子を見せる。	・座位姿勢の保持や自力での移動は難しい。 ・全身が伸展するように緊張しやすい。 ・頑張ろうとするほど力が入りやすい。	・挨拶等は不明瞭ではあるが場面に応じて発語として表出できる。 ・選択表現は発声で「はい」が言えるが「いいえ」が曖昧である。

②－２　収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難、これまでの学習の習得状況の視点から整理する段階
・力が入りすぎてしまうと、疲れ、大量の汗、嘔吐などにつながりやすい。場面を設定すると休憩を意識してできるようになってきた。（健、心） ・視知覚の特徴により聴覚以外の情報処理に弱さがあり、周囲の状況や環境を十分に把握できず、慣れない環境や場面に不安感を抱きやすい。（環） ・姿勢保持、移動を含めた動作のコントロールが不得手なため自分から事物に働きかけたり、関心を基に探索したりする経験が少ない。そのため事物への理解が深まりにくい。（身、環）

・身近な言葉への理解もあり、挨拶や繰り返しのフレーズ、何人かの友達の名前は発語で表現できるものの、緊張が亢進すると不明瞭になり慣れた相手でないと伝わりにくい。（人、環、コ） ・簡単でシンプルな問いかけに対して、「はい」と発語で答えられるが、「いいえ」の表現が確立していないため、自信がなくても「はい」と言ってしまうことがある。これにより、本生徒の具体的な意図が不明確になり、相手が文脈等から推察する必要がある。（人、コ） ・新しい環境や場面、大きな集団での活動に対する強い不安感がある。（環） ・人や事物との関わりへの意欲は高く、それに伴うルールや役割の意識の芽生えはみられるが、その力を発揮できる手段と環境が限定的であり主体的な活動参加が広がりにくい。（心、人、環、コ）

※各項目の末尾の（　　）は、②－１における自立活動の区分を示している。

②－３　収集した情報（①）を３年後の姿の観点から整理する段階
・家族や担任以外の友だちや関わり手にも自分から関わろうとすること（人、環、コ） ・やってみたいことを自分で選択しながら積極的に活動に参加すること（心、環、コ）

③　①をもとに②－１、②－２、②－３で整理した情報から課題を抽出する段階
・心身の状態を意識化して調節すること（健、心、身） ・特に視覚情報から環境や状況を把握すること（環） ・選択等の表現と、伝わる自信を持つこと（人、コ）

④　③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
まず、視て環境や状況を把握することの難しさの背景には、身体の使い方の困難さから目と手を協応させて具体物に働きかける経験の少なさがあると推察する。それにより見通しや情報を処理するような認知面の発達にもつまずきがみられる。 　次に、選択等の表現の不明瞭さは発声時に力が入りすぎているしまうことに起因する。それに伴い、発声で表現しても慣れた関わり手ではないと伝わりにくいため、不慣れな人と関わることに消極的だと考えられる。 　以上のことから、姿勢保持や具体物の操作、発声に関する身体の使い方を教員とやりとりしながら学ぶことを中心課題とし、その学習を基盤として、人や事物に能動的に関わり達成感や成功体験を積み重ねていくことを目指す。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	⑤　④に基づき設定した指導目標を示す段階
	○人や事物に自分から働きかけるための表現手段や身体の使い方を獲得する ・発声動作をリラックスした状態で行える ・「はい」は発声、「いいえ」は表情での選択の表現を身に付ける

項目の選定･指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	情緒の安定に関すること。	他者とのかかわりの基礎に関すること。	保有する感覚の活用に関すること。	姿勢と運動･動作の基本的技能に関すること。	コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関すること。	状況の理解と変化への対応に関すること。	他者の意図や感情の理解に関すること。	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	姿勢保持と運動･動作の補助的手段の活用に関すること。	言語の受容と表出に関すること。
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関すること。	障害による学習上又は生活上の困難を改善･克服する意欲に関すること。	自己の理解と行動の調整に関すること。	感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	日常生活に必要な基本動作に関すること。	言語の形成と活用に関すること。
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。		集団への参加の基礎に関すること。	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。	身体の移動能力に関すること。	コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
(5)	健康状態の維持･改善に関すること。			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	状況に応じたコミュニケーションに関すること。
Key words	休憩 リラックス	自信の無さ	限定的な関係 集団活動	視覚での状況把握	身体のイメージ 動きの調整	発語の不明瞭 選択表現

項目と項目を関連付ける際のポイント

・⑧アは自立活動の時間における指導で、前半を身（1）（3）をベースに健（3）人（1）コ（1）（3）を関連させて指導し、より良い発声動作を学習する。後半はコ（4）と環（2）（4）を中心的に関連させることで視て情報を処理することと選択の表現を合わせながら指導していく。

・上記の学習を核としてコ（1）（4）人（1）（3）を関連させながら、表現するための力を実際に発揮する場面を設定する。これは家庭生活や地域参加につなげることを想定して指導内容を検討する。

指導内容	ア．教員と１対１で発声動作や選択の表現手段について取り組む。	イ.クラスの出席状況の確認をし､朝の会で出席と欠席の二択の質問に答える。	ウ．授業等で用いる曲の中の決まったフレーズを担当して、タイミングを合わせての発声に取り組む。	エ．係の仕事として近隣の教室に届け物をしたり、文化祭の実行委員をしたりして様々な教員や生徒と関わる。
指導場面	・自立活動（時間における指導）	・朝の会	・朝の会　・音楽 ・給食　・帰りの会	

2　本指導案

中学部　（重複○○組）　自立活動学習指導案

日　時：令和○○年○○月○○日（○）
○校時：１１：００～１１：４５
場　所：中学部３グループ教室
指導者：○○○○

１　主題名「言葉や『はい、いいえ』の表現で伝えよう」

> 生徒に関する情報やできないことを羅列するのではなく、生徒の全体像がわかるように論じる。その際、障害の状態や学習の状況についてもふれること。

２　主題設定の理由

⑴　生徒観

【性格等の全体像】
本生徒は、中学部１年生で、自立活動を主とする教育課程（類型Ⅳ）で学習している。明るく活発な性格で、特に教師との一対一の関わりでは発声や笑顔が多く見られる。また、同じグループの友達がそばにいると喜んだり、自分から声をかけたりする様子が見られ、高い関心をもっていることが伺える。苦手な活動でも友達の活動をきっかけに参加できることがあるなど、人を通した外界への関心の広がりが見られる。

【障害特性】
起因疾患は脳性まひ（ＰＶＬ：脳室周囲白質軟化症）で、肢体不自由と知的障害を併せ有している。障害の特性として、まず姿勢保持、発声、摂食動作、物の操作等で身体を使おうとすると全身に伸展性の緊張が入ってしまう。このため、自力での移動や姿勢保持は難しく日常生活全般において支援が必要である。次に視覚からの情報の処理（視知覚）に特徴があり、空間の把握、細部の見分け、運動と視覚の協応に困難さがある。

【学習上生活上の困難　学習の状態】
これらの障害特性等に起因し、以下のような学習面や生活面の困難さが挙げられる。

・力が入りすぎてしまうと、疲れ、大量の汗、嘔吐などにつながりやすい。場面を設定すると休憩を意識してできるようになってきた。
・視知覚の特徴により聴覚以外の情報処理に弱さがあり、周囲の状況や環境を十分に把握できず、なれない環境や場面に不安感を抱きやすい。
・姿勢保持、移動を含めた動作のコントロールが不得手なため自分から事物に働きかけたり、関心を基に探索したりする経験が少ない。そのため事物への理解が深まりにくい。
・身近な言葉への理解もあり、挨拶や繰り返しのフレーズ、何人かの友達の名前は発語で表現できるものの、緊張が亢進すると不明瞭になり慣れた相手でないと伝わりにくくなる。
・簡単でシンプルな問いかけに対して、「はい」と発語で答えられるが、「いいえ」の表現が確立していないため、自信がなくても「はい」と言ってしまうことがある。これにより、本生徒の具体的な意思が不明確になり、相手が文脈等から推察する必要がある。

以上のことが関連し、新しい人、環境や場面、大きな集団での活動に対する強い不安感がある。人・事物との関わりへの意欲は高く、それに伴うルールや役割の意識等の初期的な社会性の芽生えはみられるものの、その力を発揮できる手段と環境が限定的になり学習場面や日常生活での主体的な活動参加の拡がりにつながりにくい。

【環境因子　将来像】
本生徒は、長期休業や休日に家族での旅行や地域活動へ参加している。また、デイサービスを利用しており卒業後も施設やサービスを利用しながら生活していくことが考えられる。これからも持ち前の明るく活発な性格を十分に発揮しながら、自分の気持ちをより具体的に伝えたりしながら人との関わりを広げていくことを長期的な目標として設定した。

⑵　主題観

選定した学習内容

本主題「言葉や『はい、いいえ』の表現で伝えよう」は、「身体のイメージと使い方」、「選択表現の確立」を中心課題として設定し、学習指導要領の自立活動の内容から５．身体の動き（１）（３）をベースに４．環境の把握（２）（３）、６．コミュニケーション（１）（２）を選定し、関連付けて、指導するものである。

実態を踏まえ、なぜ、今、この学習内容を身に付けるべきなのかを明らかにする。その際、他の学習との関連等についても考慮する。

中学１年生段階では、相手に意志を汲み取ってもらうだけでなく、「伝えることができた」、「伝わると嬉しい」という経験を積み重ねて、表現することへの自信を深めていきたい。

本時の学習活動

本時は、生徒が取り組む課題を意識しやすいように、活動を①動作・コミュニケーション②認知・コミュニケーションの２つの展開で構成している。肢体不自由のある本生徒においては①を活動のはじめに行うことで、学習に向かう準備ができ、②の活動の意欲と精度も高まると考える。

他の学習場面との関連

今年度は、秋にある文化祭での台詞の発表を一つの目標に、日々達成感のもてる活動設定をしていく。また、係り活動で「お届け係」として近隣のグループの教員や友達と関わる機会をつくったり、「国語」の授業の中では絵本などを用いて場面に応じた発語を促したりと他の学習と関連させながら、指導を計画していく。

主題に向けて、実態と障害特性等をふまえた展開や教材、発問等の工夫や教員間の連携について論じる。

⑶　指導観

指導方針

本生徒は日常生活全般において支援が必要なため、多くの授業場面で受動的な活動の参加になりがちである。そこで本時の各学習活動において、まず教員と一緒に活動を行い、そのやり方や面白みを確認したり共感したりしながら理解する（対話的な学び）。その後に、本生徒自身が試行錯誤したり十分に思考したりしながら課題に取り組み解決する（主体的な学び）指導内容を設定することで日常生活場面にもつなげられるように学びを深めたい。

生徒の実態に基づく教材等の工夫

①動作・コミュニケーション

ここでは主題に向けて根本的な課題となる身体のイメージや意識を高め、活動の基礎である座位姿勢と力の調節、そして発声動作の上達を目指す。

身体の使い方については、本生徒にとって自発的に改善することの難しい課題の一つであるため、教師と１対１で即時評価を行いながら、より良い使い方を丁寧に伝えていく必要がある。特に発声の際に全身に力を入れてしまう身体の使い方を改善するためには、身体の各部位を意識的にじっくり使う動きが必要である。そして、それらの上達により身体と気持ちの状態を認識しながら調整できると、発声がスムーズにできるという実感に繋げたい。

②認知・コミュニケーション

本生徒は環境や状況を的確に把握することに困難さがあるため、教員と１対１の整理された環境の中で、絵カードなどを用いた○×クイズと２択クイズを行う。その中で特に「いいえ」の表現（口をしっかり閉じる表情）を明確にしていきたい。そのため、問題の選択肢にする題材は実態把握段階で本生徒が確実に理解している事物について選択してもらう。この際、声かけや表情等で生徒が答えを推察しないように気をつける。教材は、平面でイラスト調の絵が認識しやすいため絵カードを使うが、確実に習得している語彙は、具体物に触れたりシルエットの絵等を用いて細部を見分けたりすることで、言葉の理解を深められるように促していく。

3　目標

⑴　自分の身体の状態を意識して発声動作を行う。

⑵　「いいえ」の表現を獲得し、教室以外の様々な場面で使える。

4．指導計画

年間を通して、本生徒の習得状況やその日の体調などに応じて中心的に行う学習活動を設定する。

課題の分類	学習活動	計画作成の留意点
基礎となる課題	・ふれあい遊び等での関係づくり ・休憩の時間の意識付け ・遊具等を用いた身体のイメージづくり ・身体各部位のリラックスの仕方 ・身体各部位の使い方	＊年度当初の実態把握の時期などには、この課題を中心にする。 ＊体調不良時や疲れがみられる時には、この課題を中心にする。
メインとなる課題 ※本時はここを中心的に取り扱う	・力の抜けた座位姿勢の確認 ・細部を見分けて判断する ・適切な緊張の状態での発声動作 ・選択の表現を使い分ける	＊教員の支援が少し必要で、もうすぐ自分でできるようになるような課題。 ＊課題に向き合えないときには要因を推察し基礎となる課題に戻る。
発展的な課題	・様々な人や場面の中での自己表現 ・文化祭で発表の台詞練習	＊メインとなる課題の上達が見られ始めたら計画する。 ＊日々の活動の成果を生徒と確認するために定期的に計画する。

時期や回数で計画をたてるのではなく、生徒の習得状況や体調等を踏まえて、柔軟に計画することが求められる。例えばこの表のように課題を段階的に捉えてその組み合わせを調整することも有効である。

5．本時の構成

⑴　本時の目標

①身体の部位を意識しながら動かすことができる。

②発声の上達に気付くことができる。

③選択場面で自分の意思を発声や表情で伝えられる。

⑵　展開

時間	展開	姿勢	○学習活動（やること） ＊学習内容（学ぶこと）	○指導上の留意点 ●評価の観点
25分	動作・コミュニケーション	あぐら座位	①あいさつ ＊活動に意識を向ける（環） ②はじめの発語練習 ＊今日の自分の声の出方を教員と確認する（身、コ）	①本時に行う内容について教材等を見せながら伝える。 ●教師の合図に合わせて声を出せたか。 ②発声の際に力が入りすぎてしまっていることや上手に言える言葉を本人と確認する。 ●難しかった時に教師に視線を向けることができたか。
			③身体を後方の教員に預ける ＊胸まわりと背中のリラックス（身、心）	③肩や胸に触れ安心感を伝える。 ●背中の力を抜いた姿勢を維持することができたか。手の指の握りこみが解消されたか。

		仰向け	④脚の曲げ伸ばし ＊股まわりや脚の意識の向上とリラックス（身、心） ⑤腕の曲げ伸ばし（手を自分の胸から教師の顔へ） ＊肩、腕、手首のリラックスと連動した動き（身、心）	④左脚股関節の脱臼に留意し可動域に気をつける。 ●脚を曲げた後に、自分でゆっくり伸ばすことができたか。 ⑤伸ばしきらずに中間の状態をじっくり行う。 ●肩、腕、手首が連動して動かせたか。 ●腰を反らさずに腕を動かすことをできたか。
		横向き	⑥体幹のひねり ＊腰、背中、肩まわりの分離感とリラックス（身、心） ＊腹部への意識を高める（身）	⑥それぞれの部位を意識しやすいように肩から徐々に動きを大きくする。 ●教員の言葉と手での指示に応じて動かせたか。 ●元の姿勢に戻るときに肩に力を入れず、体幹を使って戻せたか。
		あぐら座位	⑦腰の寝かせ起こし ＊抗重力の姿勢での腰の使い方（身） ⑧まとめの発語練習 ＊無理な力を入れずに声が出せることに気づく（身、コ）	⑦姿勢を補助しながら動かす部分を触れて伝える。 ●触れた部分を動かすことができたか。 ⑧肩と胸に力が入り過ぎないように手で触れておく。 ●肩や胸、腰を力まずに声を出せたか。 ●発語ははじめより明瞭だったか。
２０分	認知・コミュニケーショ	車椅子座位	⑨○×クイズ⇒２択クイズ ＊選択表現の明確化（コ） ＊理解している語彙の増加（環、コ）	⑨生徒が教師の表情や声かけで意図を汲まないように発問を工夫する。 ●×の時には口をつぐんで伝えられたか。 ●慣れた言葉は複数の提示の仕方でも正答できたか。
			⑩あいさつ ＊活動の終わりへの意識	⑩本時の中で良かった事を確認し、次回の予告をする。 ●教師の合図に合わせて発声で挨拶できたか。

6　本時の評価（・生徒の評価　＊指導者の評価）

・動かしている身体の部分を見たり上手く動かせたりした時に教師に視線を向けることができたか。
・スムーズに発声できたときに教員に視線を向け笑顔がみられたか。
・口を閉じることで、「いいえ」を表現することができたか。
＊本生徒の障害特性に配慮したか。
＊本生徒の実態から見て、目標設定は妥当だったか。
＊目標達成のために有効な手立てだったか。

3　自立活動の年間指導計画（参考）

中学部　1年	氏名		作成日	令和　　年　　月　　日
長期目標	・家族や担任以外の友だちや関わり手にも自分から関わろうとする。 ・やってみたいことを選択しながら能動的に活動に参加する。			
今年度の目標	①目と手を使って物に働きかけたり、操作したりする。 ②「いいえ」の表現を獲得し、いろいろな場面で使える。			

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	他の教科・領域との関連性（指導内容と指導場面）
予定授業時数	１６	１０	１６	１２	２	１６	１２	１０	１２	１２	１６	８	

主題名・学習内容

伝える、伝わる　自信を持とう

身体への意識イメージを高める

・ふれあい遊び（スキンシップ）
・遊具等での感覚運動

【　動作学習　】
・身体のリラックス
・動きと姿勢の調整

応用　⇒

・発声動作
・休憩
・手の動き

目と手を供応して具体物を操作（認知課題）する

【因果関係の理解】　⇒　【運動の終点理解】　⇒　【初期の記憶】
・スイッチ、楽器あそび　・ボール入れ、型はめ　・探し物ゲーム

選択表現を獲得する

【「はい、いいえ」表現の形成】
・〇×クイズ　⇒２択クイズ　⇒好き嫌いクイズ
（正誤の回答）　（２者択一）　（主観的な正負の回答）

文化祭

他の教科・領域との関連性（指導内容と指導場面）

＊文化祭実行委員会での他学部学年の友だちや教員に気持ちを伝えながら集団活動に参加する。
　また、文化祭当日のステージでの発表と自立活動の発声の練習を結びつけて指導する。

・「読み聞かせ」の指導では、目を使う活動と認知課題の応用として、状況を理解し、展開への見通しをもてるような活動を設定する。

・配り係の活動では、近隣の教室に届け物をして、挨拶ややりとりをする機会を設けた。

評価

前期	教員との信頼関係ができてくると、身体を動かす活動への抵抗が減ってきた。それに伴って、休憩時間にクッションを用いてうつ伏せで休むことができるようになってきている。目と手を使った活動では、教材としてはコントラストがはっきりしていて、重みのあるものが生徒の興味を喚起し、扱いやすいことがわかった。「いいえ」の表現として、口をつぐむ表情が定着してきている。文化祭に関する活動を楽しみにしている。	後期	

事例②　中学部２年生

１　自立活動の授業作り(流れ図)（参考）

児童生徒名	学部・学年	作成者
○○　○○	中学部・２年	○○　○○

計画 (PLAN)

実態把握①　情報収集　　　実態把握②－1 情報の整理	
1　健康の保持 (日常生活面、健康面など)	・健康状態は良好で欠席は少ない。 ・トイレでの排泄ができることがあるが安定しない。 ・熱がこもりやすく、衣類の着脱や水分摂取の言葉かけなど、体温調節に配慮が必要である。 ・食事量に制限がある。
(　追加　)	
2　心理的な安定 (情緒面、状況の理解など)	・注目を目的とした行動をして他者の気を引こうとする。 ・集中力が持続しにくい。 ・気持ちが向かないと手の爪周辺の皮をむき始める。タオルの糸をむしったり、小さなごみを拾ったりして口に入れることもある。関わる人がそばにいると落ち着いている。
(　追加　)	
3　人間関係の形成 (人との関わり、集団への参加など)	・他者と関わることが好きで、周囲の人に自分から働きかける。 ・大人や教師とのかかわりを特に好むが、生徒同士でも関わろうとする。にぎやかな雰囲気を好む。
(　追加　)	
4　環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など)	・時間はかかるが簡単な身辺整理ができる。 ・状況を考えずに大きな声で人を呼ぶ。 ・言葉は出ないが、身近な物の名前や使い方が分かる。 ・一対一対応や、少数であれば同数分配ができる。
(　追加　)	
5　身体の動き (運動・動作、作業面など)	・ゆっくりではあるが車椅子自走や手つなぎ歩行で移動できる。 ・車椅子操作は方向転換や速度調整が難しい。 ・箸やスプーンを使える。 ・指先を使った細かい作業にも取り組める。
(　追加　)	
6　コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)	・発声や表情、身振り等により自分の意思を周囲の人に伝える。 ・相手の言葉もおおよそ理解し、行動に移せる。
(　追加　)	
7　その他 (性格、行動特徴、興味関心など)	・音楽を聴くことが好きで、自分で機器を操作する。 ・図鑑など、写真が載っている本を好んで見る。
(　追加　)	

実態把握②－２　児童生徒の学習上又は生活上の課題や、これまでの学習状況の把握
・他者の気を引きたいときに水をこぼす、物を壊すなど、注意されることをして関心を引き付けようとしてしまう。やりたいことが自分でできたり、近くに関われる人がいたりすると落ち着く。 ・集中力が持続しにくいが、５～10 分程度で活動内容が変わると集中力を維持できることもある。 ・周囲のことに関心がなくなると、手の爪周辺の皮をむいたり、小さなごみを口に入れたりしてしまう。周囲からの関わりがあればこの行動は少なくなる。 ・定時での意思確認や誘導によりトイレでの排泄を目指しているが、うまくいかないことも多く、安定しているとは言えない。 ・車椅子操作については、広く直線的な場所は自分でコントロールできるが、教室など狭い場所では、苦手意識からか、自分から動くことが少ない。

実態把握②－３　児童生徒の３年後の将来像
・車椅子を自在に操作する力を身に付け、行きたい場所に行けるようになってほしい。 ・休み時間に自分から人に関わりに行ったり、音楽を聴いたり図鑑を見たりするなど、好きな活動に取り組めるようになってほしい。

指導すべき課題の整理③　課題の抽出
・自分から動くことが少なく、指示待ちであることが多いが、他者と関わりたい気持ちは強い。 ・周囲へ関心が向いているときは、手の爪周辺の皮をむいたり、小さなごみを口に入れたりする行動は見られない。 ・主体的に動いて達成感を味わう経験を積む必要がある。

指導すべき課題の整理④　中心的な課題	
中心的な課題	背景
①　受け身の場面が多い学校生活	方向転換や速度の調整など車椅子の基本的な操作が難しいため、教室内では自分から移動しようとせず、教師を呼ぶことが多い。
②　周囲への関心が薄れた時の行動	自分の思い通りにならなかったり、やりたいことを実現できる状況になかったりすると周囲への関心が薄れていく。

指導目標の設定⑤
①　教室内の広く設定したスペースを車椅子で移動する力を高める。◎ ②　自ら好きな活動をしたり、教師に関わりに行ったりする成功体験を積む。○

指導目標が複数ある場合は◎○で示し、選定項目と対応させる。

項目の選定・指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	情緒の安定に関すること。	他者とのかかわりの基礎に関すること。	保有する感覚の活用に関すること。	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

(2)	病気の状態の理解と生活管理に関すること。	状況の理解と変化への対応に関すること。 ◎○	他者の意図や感情の理解に関すること。	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。	言語の受容と表出に関すること。
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関すること。	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	自己の理解と行動の調整に関すること。 ◎○	感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	日常生活に必要な基本動作に関すること。 ◎	言語の形成と活用に関すること。
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。		集団への参加の基礎に関すること。	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。◎○	身体の移動能力に関すること。 ◎	コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
(5)	健康状態の維持・改善に関すること。			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	状況に応じたコミュニケーションに関すること。
Key words	①排泄 ①身辺整理	①②不安、退屈 ①②成功体験	①②他者への依存 ①②関わる喜び	①②移動能力と位置関係の見極め	①車椅子操作	②意思の表出

【項目と項目を関連付ける際のポイント】
①他者への興味関心の高さを、移動の力を高めることと関連させる。
②車椅子操作と、成功体験による心理の安定を関連させる。

①②の数字は、中心的な課題、指導目標の数字と関連するように付ける。

指導内容	環境設定に配慮し、自席、ロッカー、水道等を行き来して準備や片付けなどの車椅子自走での生活場面を増やす。	腕の可動域を広げて安定した車椅子操作ができるよう、足裏を床につけて、やや前傾姿勢で座位を保てるようにする。	環境設定を配慮しておき、自分から関わりたい教師のそばに行って共に活動する。
指導場面	・朝や帰りの準備　・給食 ・自立活動	・自立活動　・給食　・移動時 ・授業等での手指の操作時	・給食後の休憩時間

２　本指導案

中学部　（○○組）○○○○　自立活動　指導案

日　時　令和○○年○○月○○日（○曜日）
第○時　○○：○○～○○：○○
場　所　教室及び廊下
指導者　○○　○○（T1）○○　○○（T2）

１　主題名　「車椅子の操作を上達させよう」

生徒に関する情報やできないことを羅列するのではなく、生徒の全体像がわかるように論じる。その際、障害の状態や学習の状況についてもふれるようにする。

２　主題設定の理由

全体像・障害特性・学習上生活上の困難・将来像

（１）生徒観

本生徒は中学部２年生の男子で、知的障害の特別支援学校の学習を参考にした教育課程（類型Ⅲ）で学んでいる。短い距離であれば手つなぎでの歩行ができるが、ほとんどの場面で車椅子を使用している。車椅子操作に関しては、方向転換や速度調整に難しさがあるが、自走で移動できる程度の能力がある。他者と関わることが好きで、発声や表情、身振り等でおおよその意思を伝えることができ、簡易な言葉であれば言われたことを理解し行動に移すこともできる。認識面では、言葉は出ないが身近な物の名前や使い方が分かり、一対一対応や、少数であれば同数分配もできる。

健康状態は良好であるが、障害特性上、熱がこもりやすく、衣類の着脱や水分摂取の言葉かけなど、体温調節に配慮が必要であり、食事量の制限もある。また、集中力が持続しにくいため、短い時間で活動を変えていく配慮が必要である。身体が硬く、車椅子の細かい操作を苦手としているため、自分から行動する場面が少なく、受け身の場面が多い。働きかけがないと周囲への関心が薄れ、出血するほど手の爪周辺の皮をむいたり、小さなごみを口に入れたりするなどの行為がみられる。注目されようと他者の気を引こうとして、水をこぼす、物を壊すなどの行為もしばしばみられる。

本生徒は人や物への関心が高く、学校以外でも放課後デイサービスの利用や、音楽サークル、長期休業中の宿泊イベントへの参加など、積極的に地域の活動とつながりをもっている。本人・保護者共に今後も地域の活動や施設等を利用しながら様々な人と関わりながら生活していくことを望んでいる。車椅子操作を上達させ、自ら動いて積極的に人と関わっていくことで、伝え合う力が伸び、関心のある物や事柄も広がっていくことが期待できる。

実態を踏まえ、なぜ今この学習内容を身に付けるべきなのかを明らかにする。その際、他の学習との関連等についても考慮する。

選定した学習内容・他の学習場面との関連

（２）主題観

本主題「車椅子の操作を上達させよう」は、「能動的な学校生活を送ること」を中心課題として設定し、学習指導要領の自立活動の内容から５．身体の動き（４）、３．人間関係の形成（３）、４．環境の把握（４）を選定し、関連付けて指導するものである。

本授業では、身体の使い方を学び、車椅子の操作能力を高めることで自分から周囲に働きかける機会や自分でできることを増やすと共に、周囲への関心が薄れる場面の減少を目指す。元々他者と関わりたい気持ちは強いことから、方向転換や速度調整などの細かい車椅子操作能力を身に付けて自分で直接関わりに行く力を伸ばしていく。操作能力の高まりと共に、教室での活動の準備や片付けなどの身辺整理を自分でできたり、自分から好きな活動に取り組めたりする成功体験を重ねることで、自信を深めていく。自立活動の時間における指導で教師と深く関われる安心感の中で活動に取り組ませたい。

学習活動の中には文化祭のクラス企画の景品作りを設定するなど、他の学習とも関連付けた指導を計画していく。一方で他の学習においても、制作活動の際は同様の環境設定をするなどして自立活動とのつながりをもたせていく。また、朝や帰りの身辺整理や給食の準備・片付けなどの日常生活や、クラスでの役割である係活動においてもこれらに取り組む場面を意図的に設定していくことで学校生活全体に行動を広げていきたい。

主題に向けて、実態と障害特性等を踏まえた展開や教材、発問等の工夫や教員間の連携について論じる。

指導方針・実態に基づく教材等の工夫

（３）指導観

指導に当たっては、環境の設定、活動のテンポ、自己肯定感の向上に留意していく。指導環境は、椅子での活動、車椅子で教室内を移動する活動、校内を移動する活動と様々な動きを導き出すようにすることで、場に応じた力の加減を身に付けられるようにする。また、車椅子の背面にもたれがちで足をステップの前に投げ出す姿勢が多いことから、足裏で床を踏みしめることの意識付けにも重点を置く。これにより姿勢はやや前傾になり、腕の可動域が広がり、車椅子の操作性の高まりが期待できる。教室内は自分で車椅子を操作しようとする気持ちを導き出せるよう、少し余裕のある動線を確保したり、道具置き場やお楽しみ課題の場所を操作しやすいように設定したりする。一つ一つの活動は５分から１０分で次の活動へ移行し、集中力が持続するようにする。また、本人が得意な課題を適度に入れ込むことで活動へ向かう意欲を高めていく。それぞれの活動内容に関しては、クラスの役割や行事に関連した内容を取り入れ、役に立ったり達成したりした喜びを味わわせるとともに、生徒が楽しみにしている内容も取り入れ、活動への気持ちが肯定的に持続するようにする。以上のことに留意することでねらいの達成を目指す。

3 目標

① 教室の中を車椅子で移動する力を高める。

② 自ら好きな活動をしたり、教師に関わりに行ったりする成功体験を積む。

4 指導計画

段階	指導内容
1	・椅子や車椅子に深く腰掛け、足裏で床をとらえる姿勢をとる。 ・上記の座位姿勢で腕や手指を動かす活動に取り組む。
2	・近くに配置してある教材を自分で準備し、片付ける。 ・腕を大きく動かして廊下を移動し、係活動に取り組んだり図書室に行ったりする。
3	・教室内を車椅子で移動し、教材の準備や片付け、手洗い等をする。 ・音楽を聴いたり図鑑を見たりできる「お楽しみ課題」に自ら取り組む。

5 本時の構成

⑴ 本時の目標

① 足裏（特に土踏まずより前）に力を入れ、やや前傾の姿勢を維持して上肢の可動域を広げる。

② 安定した上肢の操作を身に付け、車椅子の操作技術を高める。

③ 準備や片付け、好きな活動、係活動等に自分から取り組もうとする。

⑵ 展開

配時	学習活動	指導上の留意点（○指導の手だて・●評価の観点）	備　考
3分	○挨拶と本時の内容の確認	○活動内容を写真カードで視覚化し、見通しを持てるようにする。 ●写真と言葉によって本時の流れを理解し、落ち着いて学習に向かう姿勢ができたか。	活動内容のカード
7分	○体ほぐし	○マットに横になった状態で、深く呼吸をしながら言葉かけに合わせて身体を動かし、力みを抜くように導く。 ●言葉かけに合わせて身体を動かし、力みを抜くことができたか。	マット
10分	（椅子へ移動） ○床の踏みしめと立ち上がりの動作	○背もたれのない椅子を用い、前傾姿勢の意識付けをしながら行う。 ●足裏（特に土踏まずより前）に力を入れて踏みしめや立ち上がりの動作に取り組めたか。	背もたれのない椅子
10分	○手指を使った作業 ・制作 ・iPad ・ペグさしなど （車椅子へ移動）	○文化祭のクラス企画の景品を制作することで、意欲の向上を図ると共に、集中が続くよう、複数の作業内容を準備しておく。なお、制作物は目標の個数を決める。 ●進んで景品作りに取り組み、景品を目標個数制作できたか。	机 制作に関する道具 iPad ペグさしなど
10分	○教室内の車椅子移動 ・道具の片付け ・手洗い ・お楽しみ課題	○制作に使った道具の片付けや手洗いなど、自然な流れで教室内の車椅子移動を行えるようにする。また、片付けが終わったら次の活動に移るまで好きな音楽を聴いたり、図鑑を見たりできるようにしておく。 ●深く腰を掛けて車椅子を操作し、実行しようとしたことをやり遂げることができたか。	車椅子 ＣＤラジカセ 図鑑
7分	○校内の車椅子移動 ・配布物の回収 （係活動）	○生徒同士の関係も深まるよう、車椅子自走ができる友達と共に活動する。また、係活動を兼ねて行い、他者からの感謝の気持ちを受けることで、自己肯定感を高めるようにする。時間に余裕があれば図書室など、関心の高い場所に行ってもよい。	配布物を回収するかご

		●腕を大きく使って車椅子を操作し、係活動の役割を果たせたか。 ●係活動や関心の高い事柄に自分から取り組むことができたか。	
３分	○本時の振り返りと挨拶	○活動内容の写真カードを使用し、称賛を中心に本人の自信となるように振り返る。	活動内容のカード

6　本時の評価

・　言葉で指摘することにより、深く腰掛け、足裏で床をとらえた姿勢をとることができたか。

・　上記の姿勢を維持しながら手指を使った作業や車椅子自走ができたか。

・　積極的に車椅子を操作しようとし、準備・片付けや、係活動、お楽しみ課題等に取り組めたか。

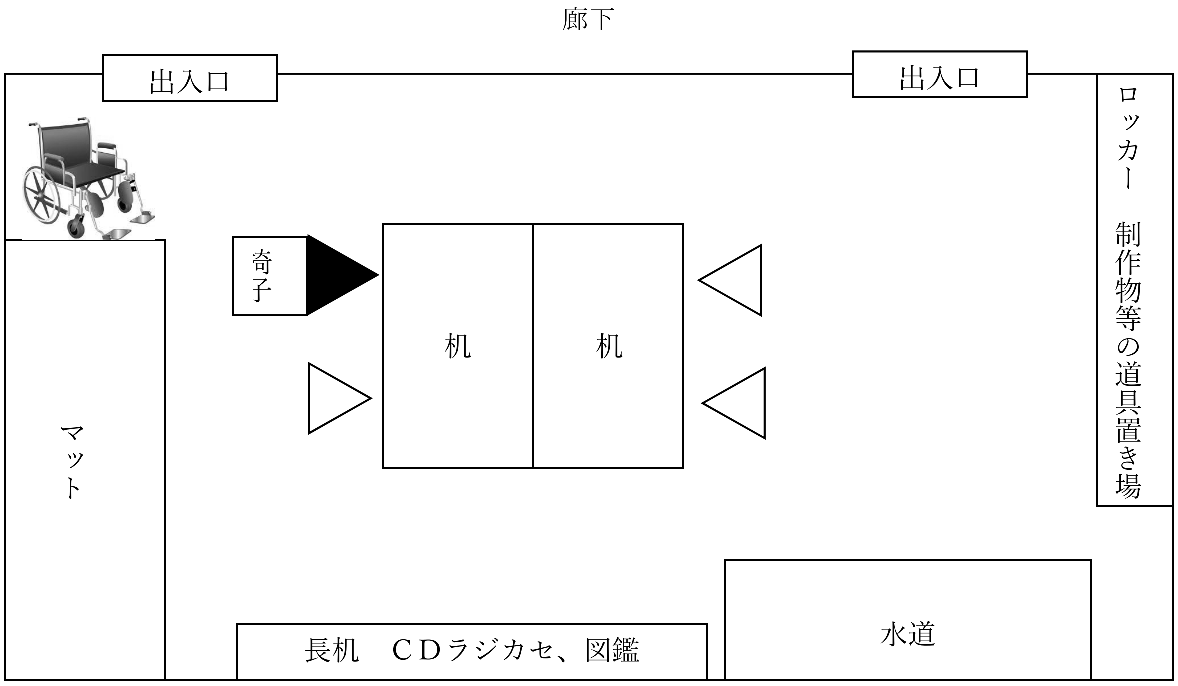
＊　活動内容や流れ、量は、本時の目標達成のために適したものであったか。

＊　環境設定は適切であったか。

＊　本生徒の特性に適した教材教具になっていたか。

7　備考

・教室内配置図　座席配置図　教材・教具配置図等



3　自立活動の年間指導計画（参考）

中学部　2年生	氏名		作成日	年　月　日
長期目標	・車椅子を自在に操作する力を身に付け、行きたい場所に行けるようになる。 ・休み時間に自分から人に関わりに行ったり、音楽を聴いたり図鑑を見たりするなど、好きな活動に取り組めるようになる。			
今年度の目標	・教室の中を車椅子で移動する力を高める。 ・自ら好きな活動をしたり、教員に関わりに行ったりする成功体験を積む。			

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	他の教科・領域との関連性 （指導内容と指導場面）
予定授業時数	10	14	16	14	2	16	16	14	10	9	12	10	
主題名 主体的に周囲に働きかけよう	身体の使い方の学習 【呼吸・基本動作】【座位】【バランス】【立位・歩行】 ・呼吸　・上肢のリラックス　・各部位の動き　・座位（床・椅子）　・踏みしめ ・椅子からの立ち上がり　・言葉かけに合わせた動き（曲げ伸ばし、ひねりなど） ・バランスボール　・歩行　等 手指の巧緻性を高める学習 【姿勢への意識】【視空間と作業空間の一致】 ・ペグさし　・シール貼り　・ビーズ通し　・アクセサリー制作　・iPad 操作　等 車椅子の操作性を高める学習・自ら好きな活動に取り組むための学習 【教室内移動（方向転換や速度調整）】　・道具の片付け　・手洗い　・好きな活動へ 【校内移動（腕の可動域の広い動き）】　・係活動　・校内散策　・親しい友だちや教師へ												・教室移動時は車椅子を操作する姿勢に意識が向くよう言葉かけする。（移動時） ・文化祭のクラス企画の景品になるアクセサリー制作を日常的に進め、達成感を味わえるようにする。（行事） ・教科等の学習や給食等の場面で、自ら道具の準備・片付け・手洗いすることを習慣化する。（教育活動全体） ・係活動をしながら親しい人とのやり取りを楽しめる場面を設ける。（係活動）

評価

1学期	身体の動きはぎこちなさが減少し、言葉かけに合わせて滑らかに動かせるようになってきた。手指を使う作業は姿勢が安定し、集中して取り組める時間がこれまでよりも5分程伸びてきた。車椅子操作時は身体を前後に動かすため、足裏での踏みしめが安定せず方向転換や速度調整の動きに課題が残った。準備・片付け・手洗いなど、自分から動き出す場面が増えてきた。	2学期		3学期	